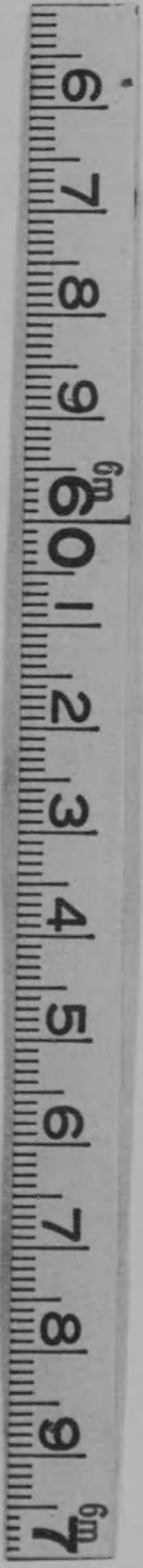


384  
170



始





384-170

### 例言

一、本書は一千九百十九年、即ち昨年ロンドンに於て出版された  
エル・トロツキイの著「ブレスト・リトウスクに到る露西亞革命史」  
を反譯したものである。

一、露西亞革命に關する著書は既に二三邦語に反譯されたが、  
いづれも單にロマノフ王朝の没落を叙したものが、レニン、トロツ  
キイの先驅者なるケレンスキイの活動の跡を辿つたものに過ぎな  
い。且つ著書も多くは單に露西亞の國情に通ずる外國通信員とか、  
革命當時露國に在住して革命進展の情況を瞥見した人とかであつ

序文

一





て、本書の如く、今次の大革命の中心人物が、自ら計劃し自ら經驗したところを、自らの筆を以て叙したるが如きは、日本は勿論のこと、未だ外國にもその例を見ない。且つ本書は、今次革命の當初より、有名なるブレスト・リトウスク條約締結に到る迄の波瀾重疊、變幻出沒の歴史を、直截簡明にして、然も流麗なる筆を以て一氣に書き下したものであつて、單に文學的讀物としても十二分の興味と價值とを有するものである。

一、露西亞革命の有する重大なる意義に關しては別に暇々を要しない。勿論、革命は決して讚美すべきものでないが、吾人が宗教革

命史を讀み、佛蘭西革命史を讀み、明治維新史を讀むのは、その由つて來るところを推し、以て將來國家百年の大計を樹立せんが爲めである。即ち過去を學ぶは將來に備へんが爲めである、露西亞革命の歴史を學ぶものもこの意氣がなくてはならぬ。三十年四十年の後はいざ知らず、現今に於て露西亞大革命を描いて最も精密、最も周到最も雄渾なる、本書の如きは斷じてない。本書は露西亞革命史中の權威であり、且つ將來露西亞革命に關する著述が、その材料の供給を仰ぐべき一大源泉である。

本書はこれを單に物語として讀んでも、通俗探偵物などより遙に



面白い。宛も走馬燈の如く、變轉極りなき露西亞革命の經過が、次ぎ次ぎに繼起して來て息を吐く暇もない。眞に事實は小説よりも奇である。舞臺は大露西亞、登場人物はレニン、トロツキイ、ケレンスキイ等革命の大立者、狂言の面白いことはいふ迄もない。

一九二〇年三月下旬

## 原序

この小著は、大部分不規則に書かれたものである。事情が事情であるから、纏つた著述などは思ひも寄らぬ。プレスト・リトウスクに於て、平和會議の合間々々に、全世界の勞働者に向つて露西亞十一月革命の原因、進展、意義を知らせることを重なる目的とするこの著述の各章が綴り合はされたのである。

「歴史」の神は、世界未だあらざる最も革命的制度の代表者を、凡ゆる有力階級中の最も保守的階級と同じ外交議席に就かしめた。平和會議に於て、我々は一瞬間たりとも我々が革命的階級の代表者で



あることを忘れたことはない。我々は戦争に困憊したる全國の労働者に向つて演説を試みたのである。我々の精力は、戦争を終熄せしむる際の最後の言葉は、他の凡ゆる問題に於けると等しく、欧州の労働階級に依つて發せらるべしと云ふ深い確信に依つて支持されてゐた。キエールマン（獨逸媾和委員）及びツェルニン（奥匈國媾和委員）に向つて物語る時、我々の心眼の中には、常にわが同盟たるカール・リ―ブクネヒト（獨逸の過激派にして一九一八年倒る）及びフリッツ・アドラー（奥匈國の過激派）の面影が宿つてゐた。予自身の自由時間は、これを獨逸、オウストリア・ハンガリー、及びその他の凡ゆる國の労働者の爲めの小冊子の準備に捧げた。全欧州の紳士閥の新聞は異口同音

に露西亞に於ける無資産制度を誹毀痛罵してゐる。社會主義者の所謂愛國的新聞は既に自らの事業に對する勇氣と信念とを失ひ、労働者階級に露西亞革命の意義を解明するの能力全くなきことを曝露した。予は現在の小著を以て彼等の救援に赴かんと欲するものである。

予は歐洲及び世界の他の部分の革命的労働者が我々を理解すべきことを信じてゐる。予は又彼等が近き將來に於て、我々が現在從事しつゝあると同じ事業を開始し、然も更に深酷なる經驗と更に完全なる知識上茲に技術上の手段を以てこの事業を更に徹底的に成就し



以て我々をしてよく一切の困難に打勝たしむることを信じてゐる。

アレスト・リトウスクに於て

一九一八年、二月十二日

エル・トロツキー

### 露西亞革命實記 目次

1	序言	三
2	戦争の問題	二四
3	ボルシエヱイク攻撃	三〇
4	七月一日の攻勢	三七
5	七月	五〇
6	七月以後	六三
7	コルニロフの擡頭	六六
8	ソツイェツト 代表者間の争闘	七三

目次



9 民主的會議……………八四

10 戦線及び後方の難事件……………八九

11 避け難き権力争ひ……………九四

12 代表者議會の爲めの争ひ……………九八

13 ペトログラード守備隊争ひ……………一〇一

14 民主議會と假議會……………一〇九

15 社會主義革命黨及びメンシエヴィク……………一一五

16 戦線の聲……………一二三

17 軍事革命委員會の委任者……………一二九

18 溢るゝ潮……………一三六

19 ペトログラード代表者日ソヴェットデー……………一四二

20 動搖分子の折伏……………一四七

21 暴動開始……………一五一

22 決戦の日……………一五三

23 人民委任者議會の形成……………一七二

24 新制度の最初の日……………一七六

25 十一月十一日のカデツト暴動……………一八四

26 ケレンスキイのペトログラード進撃……………一八八

27 ケレンスキイの冒險失敗……………一九九

28 内部の軋轢……………二一七



29 選挙會の運命……………三六

30 デモクラシーの原理……………三四

31 無資産者の統帥權……………三四

32 平和商議……………四二

33 人民委任者の外交演説……………三五

34 第二の戦争と平和調印……………六一

35 結 論……………九二

目次(畢)

露西亞革命實記

露國 トロツキー手記

茅原退二郎譯

序言

現在、事件が後から後からと急速に起つて來るので、單に記憶を辿つたのでは、一體どの事件が先で、どの事件が後で起きたかといふ單純なことさへ分らない。私は、今手許に必要な書類も記録も持

露西亞革命實記



合はせてゐない。然しブレスト・リトウスクの會議に時々切れ目が出て、現在の有様では二度と再び有りさうもない暇な時間が出るので、その暇を利用して記憶のまゝ、十一月革命の進行開展の有様を書いてみたいと思ふ。近い將來に於て、私は明確な記録の助けを借りて、この一篇の物語を完成し、且つその誤謬をも併せて直したいと思つてゐる。

革命のそもそもの發端から我黨の著しい特色であつたのは、わが黨が最後に政權を握るに違ひないといふ深い確信であつた。時勢の推移を論理的に考へてみれば、蓋しこれは必然の數なのである。革命前數年、否一九〇五年の革命前に於いて、我黨の學者は既に次の

如き結論に到達してゐた。即ち露國に於ける階級關係を深く考察分析して見ると、勝ち誇つた革命の進展は、必ずや國家の權力を極めて貧困なる農民の大集團に依つて支持されてゐる無資産階級の手に渡すに相違ないと。然し今私はこの事に就いて物語つてゐるのではない。偕て最後の勝利を占めるといふ確信の根據を爲すものは、露國の中産階級デモクラシイと露國の産業の中央集權的性質とが極めて薄弱無意義であつた結果、露國の勞働階級は社會的に極めて重大なる位地を占めてゐるといふことであつた。露國の中産階級デモクラシイが無意義であるといふことは、無産階級が有力であり重大なる意義を有するといふ事實の反面に過ぎない。戦争はこの點に關し



て多數の人々を一時的ながらも欺いてゐた。就中最も面白いのは、中産階級デモクラシイの指導者等が自ら欺かれてゐたことである。戦争は革命の決定的役目を軍隊に與へたのである。而して舊い軍隊といふものは、百姓から成立つてゐたのである。

若しも革命が更に正則に、即ち一九一二年（革命は事實この時に始つたのである）に於けるが如く、平時の状態をそのまま繼續して行つたならば、無資産階級の人間が革命の指導者の役目を承り、農民の集團は、無資産階級に導かれて徐々に革命の旋渦の中に這入つて行くべき譯であつたが、——又さうなるのが當然の成行であつたのであが、——戦争は事件の成行を全く違つたものとしてしまつた。

軍隊は政治的ではなく、單なる軍隊的基礎の上に農民階級を組織糾合した。農民の集團が確乎たる革命的要求と思想とを以つて相互の結束を固めるに先立つて、彼等は聯隊、師團、軍團の中に結合してしまつたのである。この軍隊の中に散在してゐた中流階級の（といつても中流階級の下の部の）民主主義者は、軍隊的にも智識的にも指導者の役目を承つてゐたのであるが、深く革命的感情に薰染してゐた。かくて露帝ツァールの軍隊が崩壊してしまつたので、群衆の深酷な社會的不平は益々深くなり、勃發の機會を待つてゐた。——直に革命が勃發した。——こゝに於いてか無資産階級中の進んだ人々は一九〇五年の傳統を恢復して、民衆をして代表的團體、即ち代表者會議ソウヴェット



(代表者會議は勞農會)を組織せしめた。

軍隊はその政治的意識が、急速に開展しつゝある革命的事件をよく諒解し得る程度に到達しない中に、各種の革命團にその代表者を送らざるを得ざるに到つた。一體兵隊は何人をもその代表者として送ることが出来やう。それは唯軍隊の中に散在してゐる智識階級のもの、若くは半智識階級のものであつて、少量の政治的知識を有し、少しでもその智識を口に出して喋べられるものに限られてゐるのは自然の數である。覺醒して來た軍隊の意志に依つて、低い程度の中流階級の智識あるものは、突如として絶大な權力のある位置に昇ることを得た。戦争前は退屈な私生活を送り、政治の權力を要求する

權利など少しも有つてゐなかつた醫師、技士、法律家、新聞記者の手合は、一夜にして全軍團及び軍隊の代表者と爲り、革命の指導者とまで成り上つた。事實彼等の政治的思想などいふものは、群衆の革命意識と等しく頗る曖昧を極めたものである。彼等は我々が勞働階級と農民階級の社會的要求を最も決定的、非妥協的態度で主張してゐるので、我々を單に凝り屋、頑固者扱ひにして嘲笑的に見下してゐた。併し、同時にこれ等の低級の中流階級民主主義者は、革命の成り上り者となつて傲然と構へてはゐたが、自分自身の權力を振り廻す際にも、また彼等を自から豫期してゐなかつた高い位地に昇せた群衆の中に在つても、氣まづい思をして兎角控え目勝ちに



せざるを得なかつた。社會主義者と自稱し、自分で自分を社會主義者であると思倣してゐながらも、これ等の智識ある人間は、自由黨の紳士閥の政治的權力や智識や方法を、尊敬してゐない振りをしてながらも私かに尊敬してゐた。従つて低級な中流階級の指揮者の努力は、如何なる犠牲を拂つても、同盟するとか個々に結托するとかして、自由黨派の中流階級と共同して事を爲さうとするに在つた。一切曖昧な人道主義的方則に立脚し、階級争闘の代りに一般的感情と道徳的解釋を借りやうとする社會主義革命黨員の宣言は、これ等の一時のお座なりの指揮者の爲めには誠に恰好な精神的な隠れ蓑であつた。彼等が自己の智識的、政治的の無力に對する後援を、紳士閥

のキビキビした政治上、科學上の智識の中に發見しやうとする努力の口實として彼等はメンシエヰイキ（メンシエヰイキとは過激派即ち多數派に反對する少數派の意）の教訓を借りて來たのである。メンシエヰイキは、現在の革命は紳士閥の革命である。かるが故に紳士閥が政府に加入せざる限り革命の成就是覺束なしと主張してゐるのであるから、彼等はこの教訓の中に一つの理論的の賛成、確認を得た譯である。斯くの如くにして社會主義革命黨員とメンシエヰイキとの間に自然と團體が成立した。雙方共に中流階級の智識者のしみつたれた、ためらひ勝ちな政治的精神と、帝國主義者の自由主義に對する服從的、陪臣的態度を示してゐる。



我々は明確に、階級争闘の論理は、早晩斯る一時的の結合を破壊し、この過渡期中の一時期の指導者を放り出して了ふといふことを知つてゐた。低級な中流階級の知識者が主權を握つたことは、その根蒂に於て、突然、組織的な政治的生活に或る役目を演ずる爲めに、軍隊といふ機關を通して召集された百姓等が、その驚くべき大多數といふ重みをもつて、一時無資産階級の人間を傍へ推し除けて、且つそれを壓倒しとたいふ事實を示してゐる。更に中流階級に屬する革命の指導者が軍隊といふ有力な集團に依つて突拍子もない高い位地に祭り込まれたので、進歩した人々を除いた労働階級の人間は、自然と彼等に對する政治的尊敬の念にかぶれ、百姓階級と絶縁する

ことを怖れて彼等との政治的接觸を保つて行かうとしたから、壓倒されたのも無理はない。これは全く困難<sup>じか</sup>しい事件である。老人は今日に於ても、一九〇五年の教訓をよく記憶してゐるに違ひない、即ち大多數の農民の豫備隊が間に合はなかつたので、最後の決定的戦闘に破れて無資産階級は絶滅してしまつたのであつた。新革命の最初の間、無資産階級の集團が社會主義革命黨員やメンシエヴィキの政治的思想に色氣を見せたのも、かゝる原因に依るのである。且つ革命が從來眠つてゐた労働階級の退歩的集團を覺醒した結果、知識階級の曖昧な急進主義を労働者の豫備學校のやうにしてしまつたから、殊更このやうな態度を採つたのである。労働者、兵隊、及び百



姓の代表者會議は、かゝる状態の下に於て、百姓階級の曖昧、無定形、混沌が無資産階級の社會主義よりも優勢なることを意味し、智識的急進主義が百姓の混沌よりも優勢なることを意味してゐる。

各ソヴィエツト(代表者)の建物が急速に驚くべき高さに到達したのは、その建物の建造を知識者が専門的智識と中産階級の協力一致とを以てやつたからであるが、我々はこの巨大なる建物は深い内部的矛盾の上に建てられたものであつて、不抗的に革命の第二期に於て潰れて了ふに違ひないといふことを洞察してゐた。

## 2 戦争の問題

革命は戦争から生れた。戦争は革命の凡ゆる黨派及び勢力の試金石と爲つた。知識的指導者は從來非戰論者であつた。彼等の多數は、ツァール(露帝)が帝座に就いてゐた間も、自ら國際黨の左翼に屬してゐると考へ、且つチンメルワルド主義であつた。然し一切は變化した、彼等は彼等自身責任ある位地にあることを感じた。革命的社會主義者の政策を遂行することは、當時の事情では、彼等自身の政策から離れることであり、且つ協約せる紳士閥との仲違ひを意味してゐるので、先に述べた如く、政治的に無力である中流階級の知識者、及び半知識者は紳士閥自由主義との聯合の中に、その隠れ家を求めた。斯くして戦争問題に關する中産階級の憐れむべき役目が演



せられ出したのである。彼等は哀號したり、修辭を用ひたり許りしてゐた。而して聯合國政府に向つて秘密な勸告や哀願を試みてゐた。一方彼等は實際自由黨派の紳士閣と同じ道を歩んでゐたのである。塹壕中の兵士は、彼等が三年の間従事してゐた大戦争が、社會主義革命黨員及びメンシエヴィキと呼ぶ二三の新らしい人間がペテログラードの政府に加つたからその性質を變じたといふ説を首肯することとは勿論出来なかつた。ミリユーコフがチノーウニクやボクロウスキーに取つて代り、テレスチエンコがミリユーコフに取つて代つたといふことは、唯官僚的背信が最初好戰的の士官生的帝國主義に取つて代られ、それがやがて亦、主義も信條もない出鱈目と政治的卑

屈とに取つて代られたといふことを意味してゐるに過ぎぬ。これ等のことは何等客觀的變化を惹き起さなかつた。而して戦争の慘憺たる圈内に出づるの方法を見出すことは全く絶望の如くに思はれた。軍隊の分散の最初の原因は茲に在る。煽動家は兵士の集團に向つて、王黨政府は郷等を何等の目的も意味もなく殺戮場裡に向はしめてゐるのであると告げてゐたが、ツァール（露帝）に取つて代つた者共も、戦争の性質を變化せしむることも、平和を得る爲めの戦闘を起すことも出来なかつたのである。

革命の最初の數ヶ月間は、唯單に足踏みばかりしてゐて進まうといふ氣配が少しも見えなかつたので、軍隊も聯合國政府も到頭焦れ



出してしまつた。七月一日の攻撃はかくして起つたのである。この事は古い王黨の證書が革命に依つて正式に承認せらるべきことを主張してゐた聯合國に依つて前から要求せられてゐたのである。自身自身の無力と民衆の昂り行く不平とに驚倒した低級中産階級の指導者等は直ちにこの要求を受け容れた。彼等は實際、露軍が攻撃さへすれば平和は直ちに來るものと考へ始めたのである。然ればこの攻撃は彼等に取つて無人の曠野から遁れる方法であり、現在の問題を解決する手段であり、救済の一希望であるといふ風に思はれ始めた。こんな馬鹿氣た、こんな犯罪的な空想は考へやうとしても考へられるものではない。各國の社會主義者兼愛國者は、戦争の開始當時國

民的防禦を援助し、神聖なる國民的統一を強める必要を盛んに力説したが、それと全く同じ調子で、當時彼等はこの攻撃を吹聴してゐた。彼等のチンメルワルド式國際主義は恰も魔術に依るが如くに消えて了つたのである。

反對の側に在つた我々には、この攻撃は全く無鐵砲で、全革命をも危険に陥らしむべきものであるといふことが明瞭に分つてゐた。我々は擧つて、若くは個々に、いはゞ未だよく諒解せられてゐない事件の電鳴に依つて覺醒され動搖させられた軍隊を、戦争に送るには、是非とも彼等が同化出来るやうな新らしい思想を前以て注入して置かなくてはならぬと警告した。我々は警告し、諫争し、威嚇し



た、然し乍ら紳士閥と結托してゐた在朝の黨派は、別の方法を執ることが可能<sup>でき</sup>ず、自然の數として我々を不俱戴天の仇敵として悪んだのである。

### 3 ボルシエウイキ攻撃

將來の歴史家は、民衆の精神が攻勢を準備してゐた一九一七年の五月及び六月の露西亞の新聞を、深い感動なくして讀むことは出来ないであらう。一切の政府の機關新聞、若くは半機關新聞の社説は、例外なくボルシエウイキを攻撃した。此時期の攻撃非難にして我々に向けられないものは、殆んど無いといつても差支へない位であつた。

勿論この攻撃の主役を承はつたものはカデット紳士閥であつた。彼等の階級本能は、彼等に緊切の問題は單に攻勢のみならず、革命の進展と、政權の形式である（これが彼等に取つて最も重大な問題である）といふことを自覺せしめた。「輿論」を製造する爲めに全紳士閥の機關が盛んに動き出した。一切の御役所、出版物、講壇、大學の椅子までがこの目的の中に引摺り込まれた。この目的とは、ボルシエウイキをして政治的黨派を造ることを不可能ならしむるといふことである。このボルシエウイキに對する集中せる努力と戯曲的な新聞紙戦との中に早く己に革命の第二期に隨伴して起つたところの内亂の芽があつたのである。この誹毀の唯一の目的は、勞働階



級と教養ある社會との間に敵對及び敵意の鐵壁を築くことであつたのである。

自由黨派の紳士閥は、低級なる中流階級の民主々義者の援助なくしては、民衆の助力を籍ることは、出来ぬといふことを理解してゐた。中流階級のデモクラットは、曩に述べた如く、一時的乍らも革命的諸團體の指導者と爲つたのである。従つてボルシエヴィキに對する政治的煽動の直接の目的は、我黨と無資産階級から離れ去つて、自由黨紳士閥に對して政治的屈服を餘儀なくされてゐる社會主義知識者の大多數との間に、和解すべからざる敵對の感情を起すことであつたのである。

最初の全露西亞代表者會議に於て、來るべき暴風の襲來を警告したところの電鳴が起つた。我黨は七月二十三日ペテログラードに於て武装せる示威運動を起さんことを計畫した。その目的は代表者會議を壓迫せんとするに在つた。ペテログラードの勞働者が各縣より集れる社會主義革命黨員及びメンシエヴィキに向つて發したいと思つた言葉は、

「國家の權力を引繼げ、紳士閥を蹴飛ばせ、聯合なんぞいふ考はなくして、政權を汝等自身の手を取れ」

といふ言葉であつた。若しも社會主義革命黨員及びメンシエヴィキが自由黨紳士閥と分離したならば、彼等は、遂に革命の主役を承つ



た無資産階級中の最も勢力的な、最も進歩せる人々から援助を求め、ることを餘儀なくせしめられたに違いないが、然しこれこそ低級なる中流階級の指導者の最も恐怖せるところであつたのである。彼等の代表者をも含む政府當局と結托し、自由黨紳士閥及び反革命的紳士閥と肩を並べて、彼等は我々の示威運動を嗅ぎ附けるや否や眞に野蠻的なる攻撃の火の手を擧げた、我々は議會に於て少數であつた爲めに讓歩を餘儀なくされ、その結果示威運動は遂に行はれなかつた。然し乍らこの事は二つの相争へる黨派の人々に深い印象を與へ、彼等の間に深い溝を築き、彼等の反目を益々激しくした。議會の主腦部の秘密會議の際（この會議にも種々なる黨派の代表者が出席し

た）聯合政府の一員であつたツエネテリは、心の狭い低級な中流階級の理屈屋の頑固振りを遺憾なく發揮して、革命を危胎に瀕せしむる唯一の危険は、ボルシエウイキと彼等に依て武装せられたるペテログラードの労働者であると公言した。彼は武器の使ひ様を知らない人間は宜しく武装解除すべしと切論した。勿論彼は心中ペテログラードの労働者と我黨を援助してゐるペテログラードの守備兵の一部をと考へてゐたのである。然しかゝる極端なる方法を取るには、政治的及び心理的狀態が十分に熟してゐなかつたので、武装解除は行はれなかつた。

民衆に對して是の示威運動の行はれなかつた報償として、代表者



議會は自ら七月一日武装せざる示威運動を行つた、この七月一日こそ我々の政治的勝利の日と爲つたのである。群衆は驚くべき大多數に上つた。彼等は代表者の官權に従つて、集つて來たのではある。これは六月二十三日の流産に終つた示威運動に對する反動の一種であらうが、労働者も兵士も我黨の要求と矢叫びを旗や張紙に記した即ち、

「秘密條約を撤廢せよ、軍術的攻勢政策をやめろ、名譽ある平和萬歳、十人の資本家大臣をやつつけろ、一切の權利を代表者に渡せ」といふ類である。聯合政府に信任を表した張紙は僅々三つよりなかつた。一つはコサツク聯隊、一つはブレハノフ團、今一つは大部

分非無資産階級的要素から成立つてゐるペロテグラード同盟會の張紙であつた。この示威運動は我々の反對者及び我々に、我黨はペテログラードに於て從來想像せられてゐたよりも遙に有力であることを示した。

#### 4 七月一日の攻撃

この革命的團體の示威運動の結果として、政府の危機は最早避け難く見えた。然し示威運動の印象は、革命軍が攻勢を取つたといふ前線からの報告に依つてすっかり拭ひ取られて了つた、ペテログラードの労働者と守備兵が秘密條約の發表と平和の公けの申出を要示



したと同じ日に、ケレンスキイは革命軍をして突如攻勢を取らしめた。一切のものが豫め巧く配置せられ、攻勢を取る瞬間も、軍事的でなく、政治的根據に依つて選擇されてゐたのである。七月二日にペテログラードの市街に於いて、所謂愛國的示威運動が續々と行はれた。重に紳士閥の人間の住んでゐるネーウスキイ、プロスペクトは昂奮せる人々の群で一杯であつた。その中には役人や新聞記者や立派に着飾つた貴婦人がゐて、盛んにボルシエヰキを非難してゐた。

最初の報告は、攻勢の結果の良好なることを告げた。其處で重立つた自由黨の機關新聞は最早重大なる責任は終つた、七月一日の攻

勢は、次いで起るべきその軍事的進展と全く切離して見ても、革命のこれ以上の進歩を不可能ならしめるものであると爲した。斯くして古い軍律が再び設立せられ、自由黨紳士閥の位地は更に高めるものと考へられた、然し乍ら我々はこれ以外の別のことを豫言してゐた。攻勢に先立つ數日前最初の代表者會議で我々が讀み上げた特別の宣言書の中に、我々は攻勢は必ずや軍隊の中に内輪揉めを惹き起し、種々なる黨派を互に反目せしめ、新しい思想に依つて新たにせしめられてゐないバラバラな軍隊の紀律を維持するには如何しても随分と無理をしなければならぬから、攻撃は屹度反革命的要素に非常な優勢を與ふるであらうといふことを述べて置いた。換言すれ



ば、我々はその宣言書の中に、コルニロフ主義の名目の下に包含せらるべき一切の結果歸結をちやんと豫言して置いたのである。我々は攻勢が成功した場合にも（我々は成功を信じてゐなかつた）、失敗に終つた場合にも（我々は必ず失敗することを考へてゐた）革命は同様に最大の危険を犯してゐるのだと考へてゐた。若し攻勢が成功したとしたならば、それは革命的無資産階級を除外して、上下の中間階級を熱狂的愛國主義に對する渴望を以て、結び附けたであらうし、若し失敗したとしたならば、軍隊を潰滅せしめ、混沌たる退却を惹き起し、諸縣を失ひ、民衆の失望を買つたに違ひない。

果然攻勢は失敗に歸した。即ち第二の道を行くことを餘儀なくせ

しめられた。軍隊の勝ち誇つた進出を知らせる報告はさう長くは續かなかつた。やがて多くの軍隊は攻撃隊を援助することを拒絶したとか、突撃隊を組織してゐた將校が全滅したとかいふ暗澹たる報告が來るやうになつた。かゝる軍事的事件に相應しい背景は、國內で瀕々として起る困難な事件に依つて造られた。聯合政府は土地や産業や國民的問題の解決に對しては、少しも斷然たる處置を取らなかつた。食糧供給及び運搬は皆喰ひ違つて了つた。地方の争鬭は益々盛んに行はれた。社會主義者と自稱する大臣連は、民衆に對して待つやうにと勸告した。あらゆる決議や手段は皆延期された。選舉會議の召集も延期された。政府の破産的狀態と動搖とが明白になつた。



如何考へて見てもたつた二つの方法よりない、即ち紳士閥を権力の地位から逐ひ出して、革命をして進展せしめるか。或は野獸的な壓迫手段を用ひて民衆を制御するか、この二つの方法よりなかつた。ケレンスキートツエレテリは兩者の中間の道を行つて、騒動を益々激しくすることに成功した許りであつた。聯合政府の遙に聰明な遠見の利く代表者たるカデット黨は、七月攻勢の失敗は嘗に革命に對する一大打撃たるのみならず、先頭に立つて國務を處理してゐる諸黨派に取つても大變な打撃であることを看取し、當分の間身を隠すことに決めた。その結果全責任は左黨に屬する彼等の同僚の肩の上にかゝつて來た。七月十五日内閣の危機がやつて來た。これは明白

にウクライナ（小露西亞）問題の爲めである。實際凡る意味に於ける一大政治的緊張の瞬間がやつて來たのである。攻勢の結果として軍隊は今や大混亂状態に在ると云ふ報告を齎して、前線の各方面から代表者の群や個人的使節が到着した。所謂政府の御用新聞は斷然たる壓迫の手段を取るべきことを主張した。同じやうな主張や要求が續々として所謂社會主義新聞紙上に表れ出した。ケレンスキイは一層急速にといふよりは一層露骨に、カデット黨員及びカデット黨の將軍に接近し始めて、凡ゆる革命的黨派に對して敵意をこれ見よがしに振り廻した。聯合國の使節は、軍隊の紀律を立て直し、且つ攻撃を繼續せんことを要求して、聯合政府に壓迫を加へた。政府部



内の騒ぎは益々激しくなつた。一方労働者の憤怒も益々急速度に増加し、何處かにその出口を見出さなければならぬやうな状態となつた。

「カデット大臣の辭職の機會を掴め、政府に對する全支配機を取れ」

これがベテログラードの労働者が、重立つた代表者<sup>ソグイニツ</sup>黨派、社會主義革命黨及びメンシエヴィクに對する要求の聲であつた。私は七月十五日の實行委員會の開會を思ひ起す、社會主義大臣は新らしい政府の危機に關する報告を爲した。聯合政府の政策そのものに依つて惹き起された第一番目の嚴格な試練に會つて、政府は意氣地なくも

木葉微塵になつて了つたのであるから、この夜彼等が如何なる立場を取るであらうかといふことを聽くのは私に取つて極めて興味のあることであつた。

報告者はツエレテリであつた、彼は我々に、彼自身及びテレスチエニコがキーエフ、ラーダに對して讓歩を爲した行爲は決して露西亞の分裂とはならぬといふこと及びそれは決してカデット黨が内閣を去る行動を辯護するものでないといふことを細々と説明した。ツエレテリはカデット黨の首領はウクライナ（小露西亞）人との妥協の必要を理解せざる、中央集權主義の問題に盲目なるものであるとして非難した。報告者に依つて作られた印象は極めて惘然なるもの



であつた、聯合政治の矯正の望みのない盲目的獨斷家が、カデツト黨員を盲目的獨斷家であるといつて非難するのだから耐らない。——沈着な精神を有つた資本主義のチャンピオンたるカデツト黨員を盲目的獨斷家であるといつて非難するのだから耐らない。——沈着な精神を有つた資本主義のチャンピオンたるカデツト黨員は、自分等が七月攻勢に依つて捏こち上げた不幸なる運命に對する犠牲を彼等の政治的執達吏をして支拂はしめる最初の機會を見逃さなかつた程の豪の者である。それを盲目的獨斷家とは見當違ひの感なきを得ない。聯合政府と云ふものに關する様々な經驗の後、最早たつた一つの方法、即ちカデツト黨と分離して、純粹な代表者政府ソヴェエツトを形成する

より外に仕方がないと云ふ風に思はれた。

各代表者間の當時に於ける勢力關係上、代表者政府と云ふものは、黨派的見地から見て、社會主義革命黨員とメンシエヴィキとの手に權力を集中させる目的を持つてゐたらしい。我々も亦斯うなることを衷心から希望してゐた、何となれば、代表者ソヴェエツトに間斷なく選舉すると云ふことは、勞働者及び兵士の集團の刻々高まり行く急進化の忠實なる反映を見るに必要な機關を供給するからであつた。我々は聯合政府が紳士閥と分離した後、急進的傾向が代表者ソヴェエツトに對して必然的に勝利を占めると云ふことを豫想してゐた。かゝる状態に於て權力を獲得せんとする無資産階級の努力は自然と代表者團體ソヴェエツトの議席



にまで押し寄せ、苦もなく成功するに違ひなかつた。紳士閥と分離した後は、低級な中流階級の民主々義者は、自然と紳士閥の攻撃の標的となり、その結果社會主義勞動階級と密接な同盟を構成することを餘義なくされ、而して早晚彼等の政治的無定見と不決斷とは、我々の批判に會つて、勞動階級に依つて壓服されて了ふより外に道はない、これ我々は二つの重立つた代表者黨ソツイェツトに政權を取することを勸告した理由である。我々は勿論彼等を信任してもゐないし、またその旨を明白に述べたのである。

七月十五日の内閣の危機の後も、ツエレテリ及び彼と同じ思想を有つてゐる人々は、聯合と云ふ考を棄てることが出来なかつた。彼

等は實行委員會に向つて、カデツト黨の重立つた首領は（これは全くの事實だが）獨斷主義及び反革命的氣分に對する同情との爲めにすつかり不道德な人間と化して了つたが、地方には多數の紳士閥の人間がゐて、革命的民主々義と歩武を等しくして進まふとしてゐるし、新内閣の上流中産階級の二三の代表者が彼等と協同して活動することを希望すればそれも出来ると云ふことを説明した。ダンは當時少數の曖昧な政治家に依つて組織されてゐた新急進的民主黨に對しても多大の希望を置いてゐた。聯合政府は全く破壊されて了つたが、今度はまた新しい聯合政府が出来上つたと云ふ報告は、急速にペトログラードに擴つた。労働者や兵士等は益々怒り出した。彼



等の中に狼狽と憤怒との波が擴がつて行つた、七月十六日より十八日に至る事件の原因は實にこゝに存する。

5 7 月

實行委員會の開會中、我々は己に電話に依つて機關銃隊が示威運動の用意をしてゐると云ふことを知つた。其處で我々は電話に依つてその運動を引止むべき方法を講じた。然し重大な事件は目の下に起りかけてゐた。軍隊の代表者等は命令に従はざるの故を以て解雇されて戦線から歸へつて來て、驚くべき上官の壓服事件を傳播した。それが爲めペトログラードの守備隊は非常な不安を感じ始めた。

た。ツエレテリ、ダン及びチエクヘイズが、ペテログラードの代表者を遮つて労働階級の新しい見解を述べさせず、以て無資産階級の感情を誤魔化さうと努力してゐることが明白となつたので、ペトログラードの労働者のお役人の指揮者に對する不平は益々激しくなつて行つた。六月の議會に於て選出せられ、その援助を退嬰的な諸縣に仰いでゐる全露西亞實行委員會は、ペテログラードの代表者を壓服して隅へ押しやり、ペテログラード内の政治事務の支配權を自らの手に收めやうとしてゐた。争鬭の起るのは己を得ない。労働者及び兵士等は、ソヴェエツトの御役人的政策に對して不平を鳴らし、下から壓迫を加へやうと試みた。而して我黨が更に劇烈なる行



動に出でんことを要求した。我々は諸縣の退嬰的狀態に鑑みて、ただかゝる行動を取るの時機到來せずと考へたが、また同時に戦線に於ける種々な事件が革命的労働者の中に大混亂を醸し、彼等を絶望せしめはしないかと云ふことを心配した。

七月十六日―十八日の事件に對する我黨の態度はちやんと定つてゐた。一方ベトログラードが退嬰的な諸縣から離隔して孤立に陥りはしないかと云ふ心配もあつたが、また一方にはベトログラード市の活動的な精力的な仲介が現在の状態を救ひはしないかと云ふ希望もあつた。我黨の下層階級の宣傳者は、民衆と協同して事に當り、如何なることあるとも妥協せざる底の激動を惹き起した。革命的集

團の示威運動は聯合主義の頑固な獨斷主義を破壊し、彼等をして竟に、彼等が紳士閥と全然分離するにあらざれば政權を保持することが出来ないと云ふことを餘儀なく自覺せしめ得る望みがあつた。當時紳士閥の機關紙に書いてあつた事とは全く反對に、我々には武装せる騒動を以て政權を我黨の手に收めるやうなどと云ふ意志は寸毫もなかつた。我黨の政治的援助は無論あつたに相違ないが、それは自發的に勃發した革命的示威運動であつたのである。中央實行委員會がタウリダ宮殿に開かれてゐた時、武装せる兵士と労働者の熱狂せる集團は怒濤の如く宮殿の四周に押し寄せて來た。示威運動者の中には、代表者ソツイェットの樞要部に向つて武器を取つて立たんとしてゐる極



めて少數の無政府主義者も疑なく雜つてゐた。暴動、破壊を起す機會を覗つてゐる黒百人團ブラックハンドレットもゐた。彼等が備はれて來たことは明かである。此等の人間からして、ツエルノフ及びツエレテリの捕縛、中央委員會に對する強制的壓服の要求が出た。事實ツエルノフを捕縛しやうと云ふ企もあつたのである。その後私はクレステイ監獄でこの企書くはだてに参加した一水兵に會つたが、彼は唯普通の罪人であることが判つた。而して彼はそれ迄強盜の廉を以てクレステイに幽閉せられてゐたのである。然し紳士閥及び妥協屋の御用新聞は、該運動を單に暴動的な、反革命的な性質のものであると爲し、同時に該運動はボルシェヴィキの方寸から出たもので、中央實行委員會を武器に

依つて強制し、實權を取り上げて自分等のものにすることを直接目的としてゐるものであると爲した。

七月十六日―十八日の運動は、代表者會議ソツイェットの重立つた黨派は、ベトログラードに於て全く政治的空虛の生活を送つてゐると云ふことを極めて明白に示した。當時守備兵が全く我黨の味方であつたとはいへない。守備兵の中には未だ躊躇してゐるものも、決斷の着かすにゐるものも、消極的な態度を取つてゐるものもあつた、然し旗手は別として、守備兵の中には、政府代表者會議の重立つた黨派の防禦に力めて、我々に反對しやうとしてゐるものは一人もなかつた。軍隊はどうしても戦線から引張つて來なければならなかつた、ツエ



レテリ、ツエルノフ及びその他の人々の七月中の全戦略は、成るべく時間を延ばしてケレンスキイをしてペテログラードに信頼するに足る軍隊を引率れて來させることであつた。民衆の代表的使節が續々とタウリダ宮殿に入つて行つた。タウリダ宮殿は武装せる大群衆に圍繞されてゐた。群衆は紳士閥と全然絶縁すること、銳意社會的改良を行ふこと、平和商議を開始することを要求した。我々ボルシエヰキは、町や宮殿でよく示威運動者の新らしい派遣隊が演説してゐるのに出會つた。我等は民衆の使節等に靜肅ならんことを請ひ、而して彼等に、民衆が現在の心持ちでゐれば、妥協曖昧屋が新聯立内閣を作らんとしてもそんなことは出來ないと確言した。クロ

ンシユタツトの人々は特に決心の臍を固めてゐた。我々が彼等を單なる示威運動の範圍内に止めて置くには随分と苦心をしたものである。七月十七日の示威運動は一層猛烈な性質を帯びて來た。この運動は我黨の直接指揮者の下に行はれたのである。代表者會議の首領連はまるで氣でも失つてしまつたやうな状態にあつた。彼等の演説は誤魔化し演説であつた。代表者會議のユリセスとも云はるべきチユクヘイズが民衆の代表者に與へた答辯など、來ては、まるで政治的意味も何にもないものであつた。政治的指導者は、いはゞ足踏みばかりしてゐて何うにも仕様がなかつたと云ふことは明かである。

七月十七日の夜になつて、所謂信頼するに足る軍隊が戦線から到



着し始めた。實行委員會の間催中、タウリダ宮殿は突如として、銅製の楽器で奏するマルセイエーズ（佛蘭西國歌）の音響で満たされた、最高幹部連の顔の色は忽ち變化した。最近數日間明かに缺けてゐた信任の表情が、また彼等の顔に現はれ始めた。到着したのは護衛軍中のウォルフ聯隊であつた。併しこの聯隊は數ヶ月後我々の旗下に十一月革命の際先頭に進軍して行つたものである。

その瞬間から一切のものが變化した。最早労働者と兵士の代表者やバルチック軍隊の代表者に向つて禮儀などを守る必要がなくなつた。實行委員の高壇から忠實なる革命軍に依つて今や鎮壓された武装せる謀反に關する演説が行はれた。ボルシエヅイキは反革命黨と

宣言された。武装せる示威運動の二日間に紳士閥が受けた驚愕の情は、今度は荒れ狂ふ憎惡の情に變じて行つた。その憎惡の情は、御用新聞の欄に示されたのみならず、ペトログラードの町、就中ネウスキイ、ブロスベクト（ネウスキイ廣場）で示された。その廣場で所謂犯罪的騒亂をやつてゐる現場を見付つて捕つた労働者や兵士は用捨なく打ちのめされた。旗手や士官や突撃隊の人間や聖ジョージ騎士が現在の主人と爲り、狂暴な反革命黨員がその先頭に立つた。全市を通じて労働者の機關や我黨の機關に用捨なく壓服の魔手を加へた。捕縛もあれば、御手入れもあり、肉體的酷遇もあれば、殺人もあつた。七月十七——十八日の夜、當時司法大臣であつたペレヅ



エルツエフは新聞に、ボルシエヰイキの首領の中に獨逸に買収された人間があるといふ意味の書類を送つて發表させた。

社會主義革命黨及びメンシエヰイキ黨は我々を長く且つよく知り抜いてゐるのであらうから、勿論このやうな讒訴を信じやう筈はないのだが、彼等は我々に對するこの讒訴が成功することに非常な興味を持つてゐたので、公けにそれに對して反對しやうとはしなかつた。今日に至つても、一切の紳士閥及び聯立派の新聞の欄に麗々しく茲べ立てられた偽言虚言を思ひ出すと胸糞が悪くなる。我黨の新聞は壓迫されてゐた。革命的ペトログラードは、他の縣や郡がまだペトログラードより遙かに後れてゐないと云ふことを感じた。ほん

の暫時の間、勞働者は狼狽やら困惑やらで變挺になつてゐた。ペトログラード守備隊の中で、除隊された諸聯隊は堅く拘束され、個々の兵士は武装を解除された。かゝる間にも代表者會議ソウエイツの首領連は、第三流の中流階級を包含した新内閣の建立に忙しい思ひをしてゐた。ところが第三流の中流階級は、政府の力を増さぬ許りか、政府から、その革命の開始者であると云ふ痕跡までなくなして了つたのである。

かゝる間にも、戦線の事件は行くべき方へ進展して行つた。全軍はその根底から動搖してゐた。兵士等は、革命の發端にはそれらしく見せかけてゐた大多數の將校連が、實際のところ新制度に對して



深い敵意を懐いてゐると云ふことを知つた。今や本部では全く大びらに反革命の要素の選抜が行はれ、ボルシエヴィキの公刊物は何の用捨もなく壓服された。攻勢は久しい以前から悲劇的な退却に代つてゐた。紳士閥の新聞は喧々轟々と兵隊に非難を浴せかけた。攻勢の際には、在朝の黨派は我々（ボルシエヴィキ）は取るに足らぬ少數であり、軍隊は我々の存在を少しも知らず、また少しも氣にかけてゐないと公言したが、今や彼等の攻勢といふ冒險が悲劇的な終末を告げたので、以前にも我々の存在を認めなかつた世間の人間及び黨派は失敗の全責任を我々に押しつけやうとしてゐた。牢獄は革命的兵士及び労働者で一杯になつてゐて溢れ出しさうな勢であつた。

七月十六―十八日事件の調査の爲めに、王黨の老獪な狼共が召喚されたが、社會主義革命黨及びメンシエヴィキの連中は、レニン、チノヴィエフ及びその他の我々の仲間のものが「正義」の爲めに生命を投げ出すことを要求した。

## 6 七月以後

労働者間の狼狽混亂の感情は直ちに消滅して、その代りに無資産階級のみならず、ペトログラード守備隊の中にも革命的狂熱が波及した。聯立派は一切の権力を失ひ、過激主義の波が國內に擴がり始め、多くの障害を排して軍隊の中にも侵入して行つた。



ケレンスキイを首領に戴く新聯立内閣は今や大びらに壓迫を加へ出した。ケレンスキイ内閣は兵士等の死刑を再興した。我々の機關新聞は差押へられ、我黨の宣傳者は捕縛された。然しこれ等のことは我黨の勢力を増すのみであつた。ベトログラード代表者の再選舉の際、多くの障害のあつたにも係らず、各黨派の相對的勢力は著しく變化し、多くの重要問題に關して我黨は既に大多數を占めてゐた。恰度これと同じ現象がモスクワツツイェフ代表者會議にも起つた。當時私は他の多數の仲間と共にクレステイ監獄に入つて居た。獨逸政府と協調し、且つホーヘンツォルレルン家の軍事的計畫を援助する目的を以て、七月十六―十八日の武装騒動の煽動及び編成に與つたと云

ふ廉を以て捕縛されて投獄されたのである。王黨制度の檢閲官にして有名なるアレキサンドロフは、曩に革命黨員に對して二三の迫害を試みたことがあるが、今度は反革命的ボルシエヴィキに對して共和國を保護する使命を受けた。舊制度の下では罪人は政治的及び犯罪的の二種類に區別されるのが普通であつたが、今度は新しい語法が用ひられるやうになつた。即ち犯罪人とボルシエヴィキといふのである。捕縛された兵士の中には何が何だか分らなくつて狼狽してゐるものもあつた。政治など、云ふものに夢にも手を出した事のない田舎出の若者は、革命は自分等をすつかり自由にしてくれたと信じてゐたのに、今や牢獄に繋がる身となつたので、門のある戸や格



子窓を眺めては驚異の情に打たれた。監獄の庭内を散策してゐる時、彼等はよく心配氣に、一體これは如何したと云ふ譯なのでせう、一體如何いふ結末になるのでせうと私に尋ねた。私は我々は最後には威武堂々と勝ち誇ることが出来るのだといつて彼等を慰めた。

### 7 コルニロフの擡頭

八月の下旬はコルニロフ將軍の蹶起に依つて特に記憶せらるべきものである。これは反革命軍の動員の直接の結果である。七月攻勢は反革命軍の動員に異常な刺戟を與へたのは云ふまでもない。八月下旬の有名なモスクワ國會々議に於て、ケレンスキイは有産階級と

低級中産階級民主々義との中間の位置を取らうと試みた。ボルシエヅイキは全然法律以外に存するものと見做されてゐた。ケレンスキイは國會の有産階級の嵐の如き喝采と、低級中産階級民主々義者の裏切りの沈黙の中にあつて、ボルシエヅイキを「流血と鐵鎖」とを以て脅やかした。然しケレンスキイのヒステリーの叫聲と脅威とは反革命黨の首領連を満足せしめなかつた。彼等は革命の波が、全國に擴がり、労働者や百姓や軍隊を包んでゐることをよく知り抜いてゐる。而して彼等は民衆に向つて忘るべからざる教訓を教へる爲めに直ちに最も極端なる手段を採らねばならぬと考へてゐた。富裕なる紳士閥と協調して、紳士閥のヒーローなるコルニロフは、この危険



なる仕事を部下の兵士にやらせやうとした。在朝のケレンスキイ、サグインコフ、フィロネンコ及びその他の社會主義革命黨員はコルニロフの計畫に參與した。然し彼等は、若しコルニロフにして勝利を占むれば今度は自分等が放り出されるに違ひないと云ふことに氣が付いたので、皆直ちにコルニロフを裏切つた。私は監獄の中でこの挿話を讀み、毎日紙上でその挿話の續きを追つて行つた。新聞を見られると云ふことがケレンスキイの監獄制度と舊い制度との間の唯一の重大な差異にある。コサツク將軍の冒險は美事失敗に終つた。革命の六ヶ月間に民衆は大びらの反革命的襲撃を退け得るだけの元氣と組織方とを養成してゐた。聯立代表者黨派はボルシエヴィ

キを掃蕩せんとするのみならず、その重立つた黨派と共に全「革命」をも掃蕩せんとしてゐる。あるコルニロフ案の發展に度膽を抜かれてゐた。社會主義革命黨及びメンシエヴィキは當時ボルシエヴィキの地位を合法化せんとしてゐたが、將來に於けるボルシエヴィキの危険を慮つて、徹底的に行はず、且つ幾多の保留事項を附加した。七月事件の後、無賴漢であり且つ反革命黨員であると刻印を打たれてゐたクロンシュタット水兵は、今やコルニロフの危険に對して革命を防禦する爲めにペトログラードに召集せられた。彼等は何等の異議も唱へず、嘲笑もせず、何等過去の痕跡を留めずにやつて來て、最も責任ある位地に當つた。私は五月、ツエレテリがクロンシュタ



ツトの人間の毒口をきいた時、彼に向つて下の如き言葉を浴せかけたが、私の言は全く正しかつた。「反革命の將軍が『革命』の咽喉を縛さうとする時、カデツト黨は縛を滑らかにするであらうが、クロンシユタツトの水兵は我々の援助に來り、我々と共に死なんとするに違ひない」と。代表者機關は、<sup>ソツキエツト</sup>コルニロフの撲滅戰中に、後方及び戰線に於て、その生々せる力を示した。然し何處に於ても實地の戰争らしいものは殆んど起らなかつた。革命集團は單に將軍の計畫を阻誤させた計りであつた。宛も七月聯立派が我々に敵對する兵士をペトログラード守備隊の中に發見することが出来なかつたやうに、今やコルニロフは戰線に於て「革命」に齒向ふ兵士を發見すること

が出来なかつた、彼は唯詐僞僞瞞に依つて事を行ふことが出来るのみであつたが、宣傳者の努力は間もなく彼の計畫を水泡に歸せしめた。

新聞に依つて判斷して見て、私は事件が急速に發展することを希望し、政治の權力が速かに代表者の手に移らんことを希望した。ボルシエヰイキの影響と勢力との進展は疑ふ餘地もなかつた。而して今や反抗すべからざる刺戟を受けた。ボルシエヰイキは聯合、七月攻勢の不可なることを警告し、コルニロフ反逆を豫言した。今や民衆は我々の正當であつたことを悟ることが出来た。コルニロフ計畫の最も懸念に耐えなかつた時、即ちコーカサスの「野蠻」隊がペトロ



グレードに向つて進軍しつゝあつた時、ペトログレード代表者は、政府の進まない黙許を得て、労働者を武装せしめた。餘程以前我黨討伐の爲めに召集せられた諸聯隊は、ペトログレードの激烈な空氣の中ですつかり變形して了つて、今では全く我黨側になつてゐる。コルニロフの計畫（反逆）は、遂に軍隊の心眼を開いて、最早これ以上紳士閥反革命黨と提携することの許容すべからざることを感じしめた。されば心ある人々は、コルニロフ計畫の鎮壓後、直ちに我黨に依つて指揮せらるゝ、權力を握らんとする革命軍の努力が起るに違ひないと豫期してゐた。然し事件の進行は更に遅々としてゐた。革命的感情の強烈なるにも拘はらず、群集は七月の峻烈な教訓以來

餘程注意深くなり、一切の自發的行動を爲さず、唯彼等の指導者の直接の呼び聲及び指導を俟つてゐるのみであつた。然し我黨の首領も亦些か日和見的態度を持してゐた。かゝる状態であつたので、コルニロフの冒險の終末は、根本的に勢力關係を變化せしめてわが黨に有利ならしめたが、何等直接の政變を惹起しなかつた。

#### 8 代表者間の争闘

その時迄にペトログレード代表者議會に於ける我黨の優勢は確立されてゐた、この事實は最高幹部設立の問題に關聯して、最も戲曲的に證明されてゐる。社會主義革命黨及びメンシエヴィクが代表者議



會で幅を利かせてゐた時、彼等はボルシエヴィクを孤立させやうとしてあらゆる手段を盡した、我々がペトログラード代表者議會の全數の少くとも三分の一の議席を持つてゐた時にも、彼等は我黨の代表者の一人をすら最高幹部の中に加へやうとはしなかつた。ペトログラード代表者議會が、怪しい多數を以て、純粹な代表者政府に有利なる決議を通過した後、我々の團體は比プロボーションヨナル、レプレゼンテーション較代表の根據に基く聯立議長制度の設立を要求したが、チユクヘイズ、ツエレチリ、ケレンスキイ、スコベレフ及びツエルノフを含む舊幹部はこのことを許さうとしなかつた。他黨の人間が「結合せる民主々義的戰線」の必要を説き、我々を排他的として非難する時に當つて、このこと

を想起するのも幾許かの價值あることであらう。幹部局の設立を決定する爲めにペトログラード代表者議會の特別召集が行はれた。双方ともその一切の軍勢を動員し、この争闘に備へた。ツエレチリは、紋切形の演説をして、最高幹部問題は事實政策上の問題であると論じた、我々は投票の先づ半分位は此方のものになると考へてゐた、而してこの事を成功とさへ考へやうとしてゐた。指名投票の結果、意外にも我黨は百以上といふ大多數を占めた。ツエレチリは下の如く演説した、一六ヶ月の間我々はペトログラード代表者議會の指導者として、議會を勝利より勝利へと赴かしめた。我々は卿等が少くとも三ヶ月でも、卿等が今や就かんとしてゐる位地に留まらんことを



希望する」と。モスクワ代表者議會も、一つまた一つとボルシエヅイクの手に移つて行つた、全露西亞代表者議會召集の時機が段々切迫して來た、然し中央實行委員會の重立つた團體は、議會を遠い將來に延期し、會議を不可能ならしめやうとした。新會議が我黨に多數を與へ、新しい黨派の位地に相應した新中央實行委員を選出し、聯合派から彼等の最も重要な塞を奪ひ取ることは明白な事實であつた。全露西亞代表者會議の召集に關する争闘は、斯くして我々に取つて最も重要な事件となつたのである。

これに反して、メンシエヅイク及び社會主義革命黨員は民主的會議の召集を提議した。彼等はこの團體をして我々及びケレンスキ

と相争はしめ、以て漁夫の利を占めんとしたのである。

この時まで政府の首領は全く獨立的な、無責任な位地に立つてゐた、彼は革命の第一期にペトログラード代表者會議に依つて權力の地位に昇ることを得たのである、ケレンスキイは第一着手として代表者の假りの決議もなく内閣に入つたのであるが、代表者はこれを是認した。第一回の代表者會議の後、社會主義大臣は、中央實行委員會に對して責任を有すと考へられてゐた、彼等の仲間のカデツト黨員は單に自黨に對してのみ責任を持つてゐた、七月以後、中央實行委員會は、紳士閥の意を迎へて、社會主義大臣を、當時喧傳せられてゐた如く、革命的統帥權を造る目的を以て、代表者議會に對



する責任から解放した。少数者の統帥權を調理してゐたと同じ人間が、階級の統帥權に對して轟々と非難を加へてゐる現在、このことを思ひ起すのも無駄なことではない。

人爲的に選出せられた有産階級及び民主主義の代表者が相互に均衝してゐるモスクワの國會は、その重なる目的として諸階級及び各黨派に對するケレンスキイの勢力を強固ならしめんとすることに努力してゐた。この目的は唯表面許り達せられた、眞實のところ、モスクワ國會は唯ケレンスキイの無爲無能無力を曝露したに過ぎない。何となればケレンスキイは有産階級の要素に對しても、低級中産階級デモクウシイに對しても赤の他人であるからである。然し自

由黨員及び保守黨員は彼のデモクラシイ反對の御談議を喝采し、一方聯立主義派の人間は彼が恐る恐る革命黨員を排斥非認した時大歡迎を彼に與へたので、彼は双方の援助を得、且つ無限の權威を所有してゐるといふ印象を得たのである。彼は勞働者と革命的兵士を流血と鐵鎖とを以て威嚇した。彼の政策はコルニロフと陰謀を企てるまでに進んで行つた。この事あつて聯立派の連中は彼を危険視するに到つたのである。ツエレテリは、彼特有の曖昧な外交的辭令を以て、政治に於ける個人的要素とその要素を限定すべき必要を説いてゐる。民主的會議はこの任務を果たすために編成されたものである。

民主的會議は、ソヴェエツト代表者議會、ゼムスツオ市議會、地方議會、勞働組合及び産業



組合の代表者から成立つてゐるが、これ等の代表者連は皆勝手自儘な方法で選出されたものである。この議會の重なる問題は、議會に十分に保守的な色合を與へること、代表者議會をすつかり解體してデモクラシイの無定形的集團とすること、及びこの新組織に依つて、過激主義の波及に對して彼等自身の努力を鞏固ならしむることであつた。

一言こゝで代表者議會と民主的自治機關との政治的役目の相異を述べるのも無益のことではあるまい。俗人は幾度となく我々に向つて、普通選舉に依つて選出せられたる新市議會及び地方議會ゼムスツオは比較にもならぬ位代表者議會よりも民主的であり、且つ全人民を代表す

べく更らに正當なる權利を所有してゐるといつた。然しこの形式的な民主的標準は革命の際には何の意味も持つてゐない。革命の際には、民衆の意識は急速な變化を受けるものである。人民の新進氣鋭の部分は、斷へず經驗を得、昨非を改めて新らしい見解識見を創造し、舊い指導者を棄て、他の指導者に就き、而して絶へず前進して行く。革命非常の際には、普通選舉といふ大層かたくりもない機關に基礎を置いた民主的機關なんぞは、先づ不可抗的に民衆の政治的意見の發達より後れるのが普通である。然し代表者はさうではない。彼等は直接に、工場とか鑛山とか會社とか聯隊とかいふ有機的團體に所依してゐる。勿論これ等の場合には市議會及び地方議會に對するが如



き、選舉の完全なる正確を保つ爲めの合法的保證はない。然し更に重要な保證がある。それは代表者がその選舉人と直接に接觸することが出来るといふことである。市町村議會や地方議會ゼムスツオの議員連はあやふやな選舉人連中に所依してゐる。而して一年間の期限が過ぎると解散するのである。然るに一方代表者ツツイェツトの選舉人は彼等の生活と仕事との相似に依つて相互に永久不變の接觸を保つてゐる。彼等の代表者は常に彼等の直接監視の下にゐるのであるから、時々新らしい教訓を與へてもよし、必要の際には非難叱責してもよし、辭職させて他のものに代へるといふことも可能る。

革命に先立つ數ヶ月間の一般的政治的進化はボルシエヴイクの勢

力が次第に増加し、聯立黨がその權勢を失墜したといふ事實に依つて特徴づけられてゐる。従つて此の經驗が最も明確完全に代表者議會に反映すべきことは極めて自然なことである。市町村議會及び地方議會ムスツオは、形式的な民主的性質は持つてゐても、それは單に形式一篇のものであつて、よし昨日の民衆の感情思想は表現し得るとも、今日の民衆の感情思想を表現することは出来ぬ。益々革命的階級に足場を失ひつゝあるそれ等の黨派が、市町村議會及び地方議會ゼムスツオに傾いて行くのは、蓋し自然の數であらう。この問題は再び大規模の上に、選舉議會を論ずる時に起つて来る。



## 8 民主的會議

九月下旬に當つて、ツエレテリ及び彼の援助者に依つて召集せられた民主的會議なるものは、全く人爲的性質のものであり、代表者會議の代表者と地方自治機關の代表者との結合せるもので、その結合の比例は聯立黨に重きを置くやうに出来てゐる。無援と混亂の子なる民主的會議は憐れむべき失敗に終つた。富裕なる紳士閥は、民主的會議は自分等がモスクワ集會に於て贏ち得たる位地から自分等を放逐せんとするものであることを觀破して、民主的會議に對して甚しい敵意を抱いた、一方革命的勞働階級及び農民と兵士の集團

は先づ最先に民主的會議召集の方法の不正なることを非難した。聯立主義者の應急の任務は責任内閣を造ることであつた。然もこれすら出来なかつた。ケレンスキイは責任に關する如何なる原理をも必要とせず、またそれを許さうとも欲しなかつた。何となれば彼の尻押しをしてゐた紳士閥がそれを許さぬからである。所謂デモクラシイの機關に對する無責任は、實際のところ、カデット黨及び聯合國使節に對する責任を意味してゐる、現在のところ紳士閥に取つてはこれだけで十分なのである。聯立の問題に關して、民主的會議は全く無能を示した。紳士閥との聯立賛成の投票は、あらゆる聯立反對の投票より少し許り多いだけであつた。而して役票の多數はカデッ



ト黨との聯立に反對であつた。然しながらカデツト黨を除外しては、紳士閥黨派の中に共々に聯立を結ぶに足る黨派はない。ツエレテリはこのことを腑に落ちるやうに議會に説明した。若しも議會がこのことを理解しなかつたならば、それこそ車態益々不隠となることであつた。民主的會議の黒幕で、曩に排斥したところのカデツト黨との交渉が憶面もなく取交はされた。民主的會議はカデツト黨員をカデツト黨員として待遇せず、唯公人として待遇すると極めたのである。右と左から壓服されて、低級中産階級デモクラツトは彼等自身を造つたこの欺瞞に屈服し、彼等の政治的無能を益々證據立てた。民主的會議から一つの議會が選出された。而してその議會には

有産階級の代表者數名を加へると議決された。而してこの假議會が選舉議會の召集までの隙<sup>ザツプ</sup>を埋める運命を擔ふに至つたのである。新聯立内閣は、ツエレテリの原案とは反對であるが、然も全然紳士閥の案と同じく、この假議會に對する形式的獨立を維持することなつた。これ等の事業の全經過は、我々に、生命から離れた人間精神の憐むべき、無能なる産出物であるといふ印象を與へる。その背後を透して見ると、低級中産階級民主主義者が、僅々一ヶ月前に革命に對するコルニロフの反逆を大びらに援助したと同じ富有なる自由黨紳士閥に全く平身低頭してゐる様がよく判る。全體の事件は實際自由黨紳士閥との聯立の再設立及びその永續といふことに歸する。



將來選舉議會の設立を全然勘定に入れないと、政府の権力は紳士閥の掌中に歸するといつて差問はない。聯立黨は、民衆に依つて優勢を與へられたにも係らず、相變らず、カデット黨との聯立に心懸けてゐるからである。尤も彼等は紳士閥の援助を度外しては政府を造ることは不可能であると考へてゐる。民衆はミリユーコフ黨を最も悪んでゐる。革命進展中のあらゆる選舉に際して、カデット黨は常に手激しい失敗を招いてゐる。然も選舉の際カデット黨をさんざんな目に遇はせてゐる社會主義革命黨及びメンシエヴィクは、選舉終了後は、いつも相も變らず聯立内閣の名譽の位地を彼等カデット黨員の爲めに取つて置くのを常としてゐる。かゝる有様であるから

民衆が明瞭に、聯立黨は事實自由黨紳士閥の執達吏及び御役人の役目を演じてゐるといふことを知るやうになつたのも無理はない。

### 9 戦線及び後方の難事件

國內の状態は益々悪くなり、益々紛糾を極めて行く許りであつた。戦争は何の目的もなく、意味もなく唯づるづる長びいて行く許りであつた。政府はかゝる仕末に終へぬ状態から遁れ出る手段も方法も取らうとはしない。スコベレフを巴里に派遣して、聯合國の帝國主義者を説き伏せやうといふ愚にもつかぬ珍案が發表されたが、



氣の利いた人間は誰一人眞面目に取るものはなかつた。コルニコフは、輿論を威嚇し、軍隊内に峻烈な紀律を設立する好機會を得る爲めにリガを獨軍に引渡してしまつた。ペトログラードは脅やかされ、中産階級の人間は明白な惡意を持つて、危険の到來を歓迎してゐる仕末である。國會の前の議長であつたロヂヤンコは、腐敗したペトログラードを獨逸人に引渡しても大事ないと公言した。彼はリガの例を引合に出してゐる。リガでは獨逸人の侵入に續いて代表者議會は解體し、嚴格な規律が舊時代の巡查の援助で設立されたのである。眞實バルチック艦隊は失はれても大事ない。艦隊は夙の昔に革命の宣傳の爲めに腐敗して了つてゐるのであるから、どうなつて

も一向痛痒は御座らぬと、お喋りなこのお歴々の皮肉は大部分の紳士閥の胸の思ひを打明けたものである。また實際のところペトログラードを獨逸人に渡しても、それはペトログラードを全く失つたといふ事にはならぬ。平和條約に依つてペトログラードは舞ひ戻つて来る。然しその間にペトログラードは獨逸のミリタリズムの御仕込みを受けてゐるに違ひない。さすれば「革命」はその首をチョン切られてゐるであらうから、相撲つてブツ倒すのは譯はないと云ふことに爲る。ケレンスキイ政府は、事實首府を眞面目に擁護するといふやうな意向を持つてゐなかつた。輿論は首府の引渡に傾いてゐた。御役所はペトログラードからモスクワ及びその他の都市に移さ



れた。

かゝる状態の中に、ペトログラード代表者中の兵士の部分が議會に集つた、一般の感情は昂奮し切つてゐた。「苟も政府にしてペトログラードを防禦すること能はざれば、平和を締結せよ、平和を締結する能はずんば、どんどん出て行け」

これが目下の情況に對する兵士の部分の意向であつた。これこそ來らんとする十一月革命の最初の信號シグナルであつた。

戦線に於ては事態益々險惡に向つて行くのみであつた。冷やかな秋、濕つぽくて泥濘の多い秋が近づいて來た。第四の冬期戦が起りさうであつた。食糧供給は日々に不足を告げてゐる。後方に在るものは

戦線のを忘れて了つてゐる。救援もなし、援兵もなし、暖かい衣服もない、逃亡者の數は日々増加する一方である。革命の發端に選出された舊い軍事委員は、未だその椅子に嚙り付いてゐてケレンスキイの政策を助けてゐる。軍事委員と軍隊との間には深い溝が出來、兵士等は遂に委員を憎惡するやうになつた。後から後から塹壕からの使者がペトログラードに到着して、代表者の會議で、

「一體俺達は何うしたらいいんだ。誰どいつ人が戦争を止めさせるんだ。

一體何うしたら戦争は己まるんだ。ペトログラード代表者ソヴェエツトが黙つてゐるのは怪しからん！」

と遠慮用捨もなく質問した。



## 10 避け難き権力争ひ

ペトログラード代表者議會は沈黙してはゐなかつた。代表者は中央及び地方の代表者議會が直ちに権力を取ることに、直ちに百姓に土地を引渡すこと、労働者の産業支配権の設立及び直ちに平和商議を開始すべきことを要求した。我黨が反対側に立つてゐた時、「一切の権力を代表者議會に渡せ」と云ふ叫び聲が宣傳の関の聲であつたが、我黨は今や主なる代表者議會に於て多數を占めるやうになつたので、今度は権力獲得の爲めに直接に争闘を起すべき義務を負はせられた。

諸々の村落に於て事件は非常に紛糾して來た、革命は百姓に土地を與へることを約束したが、選舉議會の開會迄は土地に手を觸るゝことを禁じてゐた。農民等は最初は辛棒強く待つてゐたが、彼等が段々辛棒し切れなくなつたので、聯立政府は壓迫手段を用ひた。兎角する間に選舉議會の望みは益々怪しくなつて來た。紳士閥は選舉議會は平和締結後まで召集してはならぬと主張した、然し一方農民は益々忍耐を失つて來た。革命の發端に我々の豫言したことが今や實現せられんとしてゐる。農民は自らの權威に依つて土地を奪ひ取らうとし始めた。復讐は益々頻發し且つ峻烈になつて來て、革命土地委員は其處此處で捕縛され始めた。或る地方に於てケレンスキイ



は軍法を公布した。各村落の代表使節がペトログラードに集合し始めた。而して彼等は代表者議會の綱領を實行し且つ土地私有者の土地を百姓の委員に手渡した爲めに捕縛せられると訴へた。農民は我黨の保護を要求した。我々は、我々の手に政府の権力がありさへすれば君等を助けることが出来るのだと答へた。然れば代表者議會にして單なる樂屋雀たらざらんと欲すれば、彼等自身の手で權力を收めなければならなくなつて來た。

選舉議會の開會に最早六乃至八週間位しかないのに、代表者議會の權威の爲めに争ふのは馬鹿氣切つてゐると右黨の我々の友は語つたが、我々はこの選舉會議崇拝熱に一寸も侵されなかつた。第一、

それが眞實召集されると云ふ保證もない。軍隊の開散、頻々たる逃亡、食糧供給の不整頓、土地均分の争ひ、皆選舉會の選舉を行ふには少しも香ばしからぬ雰圍氣を作つてゐる。更にペトログラードが獨逸人に渡りさうなので、かゝる選舉は出來さうにないと思はれた。第二に、若し舊黨の指揮の下に舊黨の名簿に基いて選舉會が召集されたとしても、それは唯政府の聯立の原則の保護、確立に役立つのみである。社會主義革命黨でもメンシエウイクでも紳士閣の援助なくしては權威を取ることには出來ぬ。唯革命的階級のみが、革命がその中に轉々反側してゐる慘憺たる圍みを破り去ることが出来る。權威を、直接間接に紳士閣の利益の爲めに盡し、政府の機關を人民の



革命的要求の防害に用ゆる奴等の手から奪ひ取るのが先決問題である。

### 11 代表者議會のための争ひ

全權力を代表者へ、これが我黨の要求である。先にはこの言葉は、黨派區分の具合から、自由黨紳士閥との聯立に反對して社會主義革命黨及びメンシエヴィクに全權を與へることを意味してゐたが、現在一九一七年十一月に於てこの要求は、ボルシエヴィク黨に依つて指導せらるゝ革命無資産者の完全なる優越を意味してゐるのである。當面の問題は無數の最も貧困なる農民階級を指導する（正確に

云へば指導し得べき）労働階級の統帥權問題である。これが即ち十一月騒動の歴史的意味であつた。

一切のものは力を合せてわが黨をこの方向に導いて行つた。革命の最初の日から我々は政府の全權威を代表者の手に收むることの己むを得ざること、及びその必要なることを主張した。代表者議會の多數は、激烈は内輪揉めの後、我々の主張を採用し、この要求を取上げた。我々は第二の全露西亞代表者議會の準備をしてゐた。我々はこの議會に於てわが黨が完全なる勝利を得ることを豫期してゐた。一方中央實行委員會は、ダンの指揮の下に（用心深いチュクヘイズは好時期を見はからつてカウカサスに向つて去つた）あらゆる



手段を盡して代表者議會の開會を妨害した。異常なる努力の結果、民主的會議に於て代表者團から援助を得て我々は遂に議會開會の時期を確定することを得た。即ち十一月七日これである。この日こそ今や露西亞歴史中の最も偉大なる日と爲つたのである。先づ小手調べをして、我々はペトログラードに北方諸縣の代表者の會議を開いた、その中にはバルチック艦隊とモスクワ代表者も含まれてゐた。我々はこの會議に於て動すべからざる多數を制した。我々はまた右翼に社會主義革命黨の保護を得ることが出来た。斯くして十一月騒動のビズネス的に整然たる組織の基礎を据えることが出来たのである。

## 12 ペトログラード守備隊争ひ

その前、即ち北方代表者の會議に先立つて、來らんとする政治的争闘に最も重大な役目を演じた一事件が起つた。

十月中旬、實行委員會の開議席上にペトログラード軍隊區の參謀附の代表者<sup>ソツイェツト</sup>中の代表者がやつて來て、參謀本部がペトログラード守備隊の三分の二を戦線に派遣することを要求してゐると報告した。一體何の目的で？ ペトログラードの防禦の爲めに派遣は直ぐには實現されなかつた。然し直ちに派遣の準備をして置くことは必要であつた。參謀本部はペトログラード代表者にこの計畫に賛成なりや



否やを尋ねた。我々は耳を聳てた、既に八月下旬に革命的五箇聯隊が全部若くば部分的にペトログラードから移されてゐた。これは總指揮官コルニコフ將軍の要求に依つて爲されたことである。彼はその當時一遍に革命的首府と話を付けて了はふとしてコウカサス野蠻師團をペトログラードに差向けやうと準備してゐたのである。我々はかく既に、軍事的活動と云ふ口實に基いた純粹に政略的な軍隊の分配を経験してゐた。豫めこゝに十一月革命の後我々の手に入つた記録を示すのも無益ではあるまい。その記録は疑ふ餘地もなく、ペトログラード守備隊撤兵の提議は、眞實のところ絶對的に軍事作業とは何等の關係もないことで、ケレンスキイその人が總指揮官デユ

クホニンに強要したものである、(デユクホニンはこのことに反對であつた)ケレンスキイはペトログラードから最も革命的な兵士、即ち最も彼に敵意を懷いてゐるものを一掃しやうと焦つてゐたのである。

然し十月の中旬にはこのことは知られてゐなかつたので、我々の疑ひは愛國的憤怒の暴風雨に遭遇した。參謀本部は我々をせつつかした。ケレンスキイは急速に脚下が危なくなつて來るのでこれもまたせつついてゐた。然し我々は悠然と構へ込んで容易に返答しなかつた。確かにペトログラードは危胎に瀕してゐた。この恐るべき首府防禦問題は我々の頭腦を非常に悩ました。然しコルニコフの苦い



經驗はあり、ロジャシコは獨逸人のペトログラード占領を以て救濟なりなど、吐かしたのを心得てゐるから、ペトログラードは或はその反逆的精神の罰として喜んで獨逸人の手に渡されるかも知れないといふ懸念がある。實行委員會は慎重検査の上ならではペトログラード守備隊の三分の二を移すといふ要求には記名調印することは出来ぬといふことに一決した。我々はかゝる要求を發せしめたところの軍事的必要が果して有りや否やの證據を掴まなくてはならぬ。而してこの目的の爲めに、この問題を仔細に點檢すべき機關を造らねばならぬと斷言した。斯くの如くして代表者議會の兵士部、即ち守備隊の政治的代表者と相並んで、軍事革命委員會といふ純粹な活動

的機關を設立しやうとする考が浮んだのである。この委員會は遂に絶大な勢力を得て、實際に十一月革命の重要機關と爲つた。

我々がペトログラード守備隊の純粹な軍事的指揮のあらゆる糸を一手に集めて操縦しやうとする一機關の創造を提議した時、我々は疑ひもなく明瞭にこの機關は無限の價値ある革命の武器となることを意識してゐた。我々は當時決定的に且つ大びらに、我々はその目的の爲に奮起し協同一致事に當らうと努力してゐた。全露西亞代表者議會の開會は、前言の如く十一月七日と極つてゐた。而してこの議會が代表者の最高權授受に賛意を表する決議をするといふことは疑ふ餘地がなかつた。然しかゝる決議は一遍に行なはなければ、そ



れこそ三文の價値もないプラトーン的（實も葉もない）示威運動になつて了ふ怖れがある。而して若し我々が十一月七日に騒動を起すことに定めて置いたならば、それは事態の必然の成行とチャンと符合した都會のよいものになつたに違ひない。紳士閥の新聞は實際かうなることゝ信じてゐた。然し議會の運命は先づペトログラード守備隊の態度如何に懸つてゐる。若し守備隊にして數百或は數千の旗手、士官學校生及び突撃大隊の人員を派してケレンスキイを援助し、議會を包圍し、それを解散せしめんとしたらば如何、守備隊をペトログラードから抜き去らんとする計畫——こは政府が代表者議會を解散せしめんと準備しつゝあることを意味してはゐないであらう

か、若しさうでなかつたとしたらそれこそ眞實隨分奇態なことだ、我々は全國環視の中で、堂々と代表者の全勢力を動員して聯立政府に致命傷を與へんとしてゐるのであるから……

然ればペトログラードに於ける全争闘はペトログラード守備隊の運命問題に關する争に集中して來た。勿論第一にこの争ひは兵士の精神を動かした。然し労働者も亦この争ひに生々した興味を感じてゐたことは明かである。何となれば若し軍隊にして他に移動せんか、彼等は士官候補生及びコサツク兵に依つて粉碎される怖れがあるからである。争闘はかくして甚しく鋭い切迫したものと爲つて來た。而して兩者の争ひの中心點となつたこの問題はケレンスキイ政



府に取つて甚しく香ばしくなくなつて來た。

守備隊奪ひ合ひ戦と竝行して、前に述べた代表者議會の召集に關する争ひも依然行はれてゐた。この争ひに關聯して我々は大びらに、ペトログラード代表者及び北方地方の代表者の名に於て、第二次代表者議會はケレンスキイ政府に三行半を打ちつけて、自ら露西亞の眞の主權者とならなければならぬと宣言してゐた。實際的騷動は既に 全國の眼前に於て進捗し開展しつゝあつた。

十月中騷動問題はわが黨の内部生活中に重要な役目を演じてゐた、フィンランドに潜伏してゐたレーニンは、更に強烈な戰略の實行を強要する無数の手紙を書いて寄越した。兵士の間にも大なる騷

擾と不平とがあつた、何となれば過激黨が、今や代表者議會に於て多數を制しながら、未だに自らの関の聲を實地に行はなかつたからである。十月二十八日わが黨の中央委員會の秘密會合があつた。レーニンも出席してゐた。その日の議事日程は騷動問題であつた。二人の不賛成者があつた許りで、滿場一致革命及び郷國を全滅から救ふ唯一の手段は武装騷動であり、その目的とするところは、政府の最高權を代表者<sup>ソウイェツト</sup>の手に收むることである。と云ふことに決した。

### 13 民主議會と一時的議會

民主<sup>デモクラチック、コンフェレンス</sup>的會議から生れた民主<sup>デモクラチック、カウンシル</sup>議會は前者の一切の無能を引



繼いて持つてゐた。舊い代表者黨即ち社會主義革命黨とメンシエヅイクとは議會に於て人爲的に多數を制してゐたが、これは彼等の徹底的な政治的屈服を更に徹底的に曝露したに過ぎぬ。黒幕にはツエレテリがゐてケレンスキイ及び「富有なる要素」に會議に於て紳士閑といふ凌辱的な言葉を避ける爲めに彼等がかう呼び始めた」と複雑した話を進めてゐた。此等の商議の進捗及び結果に關するツエレテリの報告は、宛も全革命期の墓標に捧げられた哀悼の辭のやうであつた。ケレンスキイも富有なる要素も内閣が新らしく組織された半紙代表的團體に對して責任を有すと爲す原則に同意しないといふことが分つた。一方カデット黨以外に事務的な公人を見出すことも

不可能であつた。然ればこの事務の組織者連中は兩方の點で失敗に歸せざるを得なかつた。第一民主的會議は無責任な舊制度に止を刺す目的で召集せられたものであり、且つ民主的會議は明かにカデット黨との聯立を排斥してゐるのであるからこの降服は猶更痛快極まることであつた。新革命前の民主的議會の最後の二三の會合には、大なる緊張と實際的無力との雰圍氣があつた。議會は革命の進捗を反映せずして、却つて革命が遠くその背後に廻したところの諸黨派の分裂解體を反映してゐたのである。

既に民主的會議の開會中私はわが黨内に、示威的に會議より脱出すること、及び民主的議會をボイコットすることを提議して置い



た。我黨の行動に依つて民衆に、聯立主義者は革命を袋小路に運んで行つて、二進も三進も行かなくしてしまつたといふことを示すことが必要があつた。代表者政府の形式に對する争闘は、唯革命的方法に依つてのみ成就されるのだ。善事を爲すことも出來ず、また急速に實際の害惡を爲す能力すらも失つて行くそれ等の人間の手から權威を剝奪することが最も必要である。我々の政治的方法を、代表者の周圍の一切の勢力の動員に依り、全露西亞代表者議會に依り、暴動に依つて、人爲的に選抜された假議會及び有るのか無いのか判りもしない選舉會に依る彼等の行動の方法に反對せしむることが必要である。これは唯だツエレテリ及び彼の友人に依つて創造せられ

たる團體と大びらに分離し、而して労働階級の一切の注意と力とを代表者の諸機關の上に集中せしむることに依つてのみ成就され得る、如上の理由に依つて私は、民主的會議より示威的に脱退すること、工場及び軍隊内に革命的暴動を惹起することを提議したのである。彼等は『革命』の意志を誤魔化し去り、革命を導いてまた例の紳士閣との妥協といふ御定まりの計畫の中に投じやうとしてゐるのである。數日後に受取つた手紙の中で、レニンはこれと同意義のことを言つてゐる。然しわが黨の首領連の中にも未だ大分躊躇してゐるものがあつた。労働者及び兵士等はわが黨の首領連より速かに七月の復讐の印象を忘れて了つてゐた。わが黨の頭株連中にはまだ民



衆が機を熟してゐない中に何か仕出かして革命を不成功に終らしめては大變だと大分心配してゐる向があつた。民主的會議に於けるわが黨の中から、民主的會議に參與してはならぬといふ私の提議に對して私は五十の賛成投票、七十の反對投票を得た。然しながら民主的會議に於ける經驗は直ちにわが黨の左翼を堅めた、妥協の方法などといふものは一種の欺瞞、詐偽のやうなもので、それは唯一般民衆の間に足場を失つて了つて聯立派に援助せらるゝ有産階級に革命の指揮權を與へるに過ぎないことに爲つて、決して柔弱な中流階級のデモクモットが革命を導き入れた袋小路から脱出する所以でないといふことが直ちに明瞭と爲つた。民主的會議が有産階級の代表者の

補足を得て、假議會に變形するに先立つて、わが黨のこの團體から脱出せんとする用意は既に熟してゐた。

#### 14 社會主義革命黨及びメンシエヴィク

當時我々の眼前に横つてゐた問題は、左翼の社會主義革命黨が我々に従つて此の方向に進み行くか否かであつた。この團體は當時未だ形成の途中にあつたが、わが黨の立場から見るとそれは極めて遅緩なものであつた。革命の當初に於て、社會主義革命黨は全政治的視野に於て極めて強大なるものと爲つてゐた。百姓、兵士及び労働者の多數さへも社會主義革命黨に投票した。



彼等はこの類の成功を少しも豫期してゐなかつたので、一度ならず彼等は自分自身の成功の波に溺れて窒息するやうな危険に遭遇した。純粹な資本家と土地を所有せる階級と工面のいゝ知識階級者を除いて他の凡ゆる人間は皆社會主義革命黨の麾下に馳せ參じた。然しこの現象は革命の當初の状態に相應したものであつた。階級の區別は未だ時が経たないので明瞭でなく、且つ「結合一致せる革命的戦線」に對する渴望が、農民との接觸を失ふことを怖れてゐる勞働者も、土地と自由とを求めてゐる農民も、此等の二階級を指導せんと焦慮してゐる知識階級者も、新しい時勢に適應せんと試みてゐる官吏等をも等しく庇護せんとするこの黨派の曖昧な綱領の中にそ

の表現を見出したので、かゝる現象が生じたのである。王黨政府の當時、勞働黨に所屬してゐたケレンスキイは、革命の勝利の後社會主義革命黨に加入した。この黨の人気は、ケレンスキイが權力を得るに従つて盛んと爲つて行つた。多くの大佐や大將等は、陸軍大臣に對する尊敬の念から、必ずしもブラトニツク（純潔）ではないが、先の威嚇主義者の黨派の名簿にその名を記入した。舊い革命派に、屬してゐる社會主義革命黨員は、當時既に「三月」社會主義革命黨の人員が増加する一方なのに多少安からざる態であつた。三月社會主義革命黨と云ふのは、革命が舊制度を倒し、社會主義革命黨が權力の位地に進めた後、三月に於て始めて集合した黨派に過ぎない、



かゝる有様であるから、この黨派はその無定形混沌の中に、進展しつゝある革命の内部的矛盾を包含するのみならず、退嬰的な農民の集團の凡ゆる偏見と知識階級の感傷主義センチメンタリズム、不安定、野心等をも包含してゐた。この黨派がかゝる形に於て長く存在し得ざることとは明白である。思想の點からいふと、この黨派はそもそもの發端から無力であつたのである。革命の最初の舞臺で政治の主役を務めたものはメンシエウイクであつた。彼等はマルクス學派を通過して來て、科學的に現在の階級闘争の眞意義を誤魔化し去り、而して當時の事情の許す限り、自由黨紳士閥の主權を確保する爲めに、自己の道を政界に發見すべきある手段と習慣とを會得してゐた。これ紳士閥が權

力を握るは正當なりと云ふ説を辯護したメンシエウイクが、急速に消え去つて、十一月革命に到らざるに先立つて殆んど零ゼロに爲つて了つた所以である。

社會主義革命黨も亦最初には労働者の間に、次に軍隊間に、最後には村落にもその勢力を益々失墜して來た。然しながら十一月革命の當時には、彼等は依然として數の上からは極めて有力なる黨派であつた。然し階級闘争は内部からそれを覆へしてゐた。右黨の最も熱狂的愛國主義者たるアブクセンチエフ、ブレシユコ・ブレシユコーウスカヤ、サヴィンコフ及びその他の連中は遂に反革命黨に趨り、形成の途中にあつた左黨は労働階級と接觸を維持しやうと努力



してゐた。若し吾人にして社會主義革命黨員たるアブクセンチイエフが、内務大臣の資格に於て、全く社會主義革命員より成る農民土地委員を、彼等自身の役柄上土地均分問題に關して争つたといふ廉を以て捕縛したことを記憶してゐるならば、この黨派内の不一致の如何に甚しいかは極めて明瞭に爲るであらう。

中央に鎮座してゐるのは、この黨派の傳統的首領ツエルノフである。老練な記者で、社會主義の學問に通じ、黨派争ひにかけては名人の名に背かぬ彼は、黨派の生命が海外に放浪せる亡命者に集中されてゐた時も、相も變らぬ首領であつた。革命が、最初無差別に滅茶苦茶に前進運動を始めた時、どさくさ紛れに社會主義革命黨は懸

くべき權力の地位に登つた。同時にツエルノフも自働的に昇進したのであるが、憐れむべし、それは唯第一期の主立つた政界の人物の中にあつて彼の全然無能力なることを示す結果と爲り終つたのである。ツエルノフをして自黨の外國在住の連中間に重きを爲さしめたそれ等の細々した資格は、革命の計量器に掛けては氣の毒な程輕かつた。彼は一切の責任ある決議を避け、一切の緊切な問題を回避し、事件の成行を觀望して、一切の積極的行動に出づるを嫌つた。かゝる機略が、暫時の間自黨の左右二分派の中央の座を彼に與へたのだが、左右二分派間の距離は段々廣く爲り行く許りであつた。黨の一致は最早維持することが出来なかつた。先の威嚇主義者サグインコ



フはコルニロフの謀反に參與した人だが、コサツク將校中反革命連と最も親密な間柄であつた。而して彼は左翼の社會主義革命黨員を多數に含むペトログラードの労働者及び兵士を粉碎せんとの準備をしてゐた。左翼の御機嫌取りに、中央黨はサヴインコフを黨から追ひ出した。然しケレンスキイに敵對しやうとはしなかつた、

假議會に於いて、この黨派は恢復の望みなき程分裂してゐることを示した。三分派は別々に行動した、尤も同じ黨の旗幟の下に進んでは行つたが……同時に此等の三團體の連中は一體自派に何が缺けてゐるかといふことに對する明確な觀念を持つてゐなかつた。選舉會に於けるこの黨派の形式的優勢は單に同じ政治的無能力の連續を

示すに過ぎないものであつた。

### 15 戦線の聲

ケレンスキイ及びツエレテリの政治的統計に依ると、我々は假議會に僅か五十許りの議席より所有してゐない。その假議會を去るに先立つて我々は左翼社會主義革命團と會合を組織せんとした。然し乍ら彼等は、實驗に依つて議會の望みのない事を百姓に知らせる必要があるといふ根據に依つて我々と行動を共にしなかつた。彼等の頭株連中の一人は、

「我々は、若し卿等にして直ちに街頭に出で、大びらの争闘を起こ



す目的で假議會を去らうと云ふのなら、我々は卿等に追隨しては行かぬといふことを、卿等に警告するのが我々の義務であると思ふ』

と言つた。紳士閥及び聯立派の新聞は、過激派は只管に革命的状態を造り出さんが爲めに一時的議會を解散せんと志してゐるのだと言つて責めた。一時的議會に於ける我黨の團體は左翼社會主義革命黨員などを待つてゐないで獨立に行動すべき事を議決した。一時的議會の演壇で、議會より脱退する理由を説明した我黨の宣言書が朗讀された時、多數の團體から悪罵と無力な憤怒との叫び聲が起つた。ペトログラード代表者議會に於て、茲では我黨の行動は驚くべき多

數に依つて賛成されたのであるが、少數團體たる國際的メンシエグイクの首領マルトフは、吾人が共和國の假議會（これがこの不評判な議會の政府で定めた名稱なのである）から脱出しやうとする行爲は、我々が直ちに現在の政府に向つて大びらな攻撃を開始する爲めとすれば多少の意味がある。さうでなければ無意義なことだと我々に向つて論じたが、これこそ我々が將に遣り遂げやうとしてゐたことなのだ。然れば自由黨紳士閥の手先連中が、我々を目して革命的状態を作出せんとするものであると非難したのは正當なことである。何等望みのない現在の状態から脱出する方法は、大びらに暴動を起して、直接権力を握むより外にはないといふことを我々は悟



てゐた。

七月中に於けるが如く、新聞及び其他の凡ゆる輿論の機關は我々に反對の鋒を向け始めた。コルニロフ謀反の後からずつと蓄積されてゐた最も害毒のある武器が復び七月の武庫から取り出されたのである。そんな事をしたつて駄目だ！ 民衆は自然と我々の方に集つて来る。彼等の精神は刻々に昂つて行く、戦線から来る代表者は、ペトログラード代表者議會に於て我々に斯う尋ねるのが常であつた。

「この耐へ難い状態は何時まで續くのだ。兵士等は我々に、卿等にして若し十一月十五日までに平和締結に對する決定的手段を取ら

ぬならば、我々は塹壕を引上げる、而して全軍は後退すると卿等に告ぐべき職務を與へてくれた。」

事實斯の如き決議が戦線全般に擴つてゐた。兵士等は、自分等が書いた「全軍雪が降らぬ中に引上ぐべし」といふ宣言書を方々に散布してゐた。塹壕の代表使節は又代表者議席に來てかう云ふのが常であつた。

「卿等は全然我々の存在を忘れてしまつてゐる。若し卿等にして巧まい方法を考へなければ、我々は自らやつて來て我々の銃劍で以て我々の敵を追つ拂つて了ふ。但しその時は卿等も一緒だぞ」  
數週間の中に、ペトログラード代表者議會は全軍の注視の焦點と



爲つた。その政策が變化し、その幹部の新選舉が行はれた後、その議決は力歇きて絶望の淵に沈んだ軍隊に、この不可能な状態から脱出する方法はボルシェヴィクの立てた方策、即ち秘密條約の公開と全戦に亘つて休戦を即刻提議することに依つて成就されると云ふ新しい希望を吹き込んだ。

『卿等は全權が代表者の手に渡らねばならぬといつてゐる。然らば取れ、卿等は戦線の兵士が卿等を援助せざることを怖れてゐる。一切の疑ひを放棄せよ。驚くべき兵士の大多数は全く卿等の味方である。』

その間もペトログラード守備隊の撤退に關する争ひは急速に進行

してゐた。中隊、聯隊の委員より成る守備隊の會合は殆んど毎日行はれた。守備隊内の我黨の勢力は絶體的であり、且つ殆んど分離すべからざるものと爲つた。ペトログラード軍隊區の參謀本部は極度の混亂状態に在つた。或る時は我々と正則な關係を結ぼうとし、或時は中央實行委員會の首領連に説伏されて、我々を壓服しやうと試みたりしてゐた。

### 17 軍事革命委員會の委任者

我々は既にペトログラード代表者議會に附屬せる特別軍事革命委員會の組織に關して述べたことがあるが、我々はそれをペトログラ



ード守備隊の代表者參謀本部と對立せしめやうとしてゐたのである。

併し二つの參謀本部が存在するといふのは如何なものだらう。許し難いことだ』

と聯立黨の獨斷家代表者は論じた。

『然し、守備隊が政府の參謀本部に信任を置くことが出來ず、ペトログラードから軍隊を他に移すと云ふ事が、ある新らしい反革命的計畫に依つて命せられ得るやうな有様では困るぢやないか』と我々は答へた。

『然し新參謀本部を造る事は一揆暴動の所爲だ。卿等の軍事革命委

員會は軍事的計畫だとか、軍事當局者の命令とかを検査しやうとするのではなくして、寧ろ現政府に對する反逆の準備をし、それを實行しやうとする爲なのだ』

これは右黨の論、この議論は全く正當である。然し下の如き理由に依つて我々はピクともしない。即ち聯立政府を倒す必要が代表者議會の驚くべき多數に依つてちやんと認められてゐるからである。メンシエヴィクや社會主義革命黨が仔細あり氣に、軍事革命委員は不可抗的に反逆の器具となる事を論じたてればたてるだけ、ペトログラード代表者議會はこの新らしい軍事機關も援助した。

軍事革命委員會の第一の仕事は、ペトログラード守備隊のあらゆる



る部分、及び部部の最も重大な機關の一切に對して委任者を任命することであつた。我々は各方面から、政府、否寧ろ政府黨が盛んに彼等の軍隊を編成し武装させてゐるといふ報告に接した。官有と私有とを問はず、種々な處から、彼等はライフル銃や、連發銃や、機關銃や、彈藥箱を持ち出して、士官學校生、學生、及び一般の紳士閥の青年を武装せしめつゝあつた。即刻防禦手段を講ずる事が必要であつた。委任者が凡ゆる倉庫や武器庫に差遣され、彼等は何等の反對も受ける事なくそれを奪ひ取つて了つた。事實、倉庫の指揮者や所有者は與へる事を拒絶したにはしたが、委任者連は兵士委員會或は倉庫の雇人に訴へて直ちに反對を容易に壓服する事が出来たの

だ。以後武器は我々の委任者の直接命令に依つてのみ取出されるやうになつた。

ペトログラード守備聯隊はこの以前に既に彼等の委任者を持つてゐたが、彼等は、中央實行委員會に依つて任命されるのが普通であつた。我々は既に七月の代表者議會の後、もつと委しくいふと、ポルシエウイクの勢力増加を示した七月一日の示威運動以後、聯立黨は殆んど革命的首府に於ける事件の成行に對して、ペトログラード代表者議會が何等實際的影響を與へ得ざるやうにして了つた。ペトログラード守備隊の事務の支配を中央實行委員會の手に收めて了つたのである。今や問題は到る處に於て代表者議會委任者を正式に就



任せしむるの法如何に依る、この事は只兵士の集團の精力的な共同運動に依つて成就された。どの聯隊もどの聯隊も、各派の辯者の演説の終つた後、我々はペトログラード代表者議會によつて任命せられた委任者のみを認め、且つ彼等の承認なくして我々は何事も爲さぬと宣言するのが常であつた。

此等委任者の任命に際して、ボルシエヴィクの軍事機關は最も重要な役目を演じた。既に七月以前に於てこの機關は素晴らしいプロバカンダを實行してゐた。七月十八日、ケレンスキイがペトログラードに引率して來た自轉車大隊が、我黨の軍事機關の所在地たるグルゼスチンスカヤ嬢の別墅を劫奪した。多數の首領株と兵卒とが捕縛

され、新聞は差押へられ、印刷機械は破壊されて了つた。我黨がまた新聞を出すやうになる迄には随分と日數がかゝつた。加之に今度は地下で新聞を製造した。この軍事機關はペトログラード守備隊の僅々數百人しか含んでゐないのであるが、彼等は更らに七月及び八月間にケレンスキイによつて幽閉された意志の確乎しつかりした、全く熱心な革命の味方たる兵士、青年將校、特に旗手と氣脈を通じてゐたのである。今や此等の人々は軍事革命委員會の命令通りになつてゐる。而して彼等は最も責任のある軍事的位地に任命されてゐるのである。

然し茲で、十一月直ちに暴動を起すことに對して極端な注意とあ



る疑惑の念とを懐いてゐたのは我黨の軍事機關の委員その人であつたと云ふ事を云つて置くのも無益な業ではあるまい。この機關の排他的性質と全く軍事的な性質とが、無意識にその頭株連をして暴動の純粹な技術方面に餘りに重きを置かしたものであるが、かう云ふ見地から見れば疑もなく我々は非常に薄弱無力であつたのである。我々の力は民衆の革命的精神と、我々の旗下に於て戦ふを快しとするその意氣に在るのだ。

## 18 溢るゝ潮

組織編成の仕事と並行して、荒れ狂ふ激動擾亂が醸されてゐた。

工場や、『近代』及びシニセリ曲馬場や、クラブ、兵舎の中で絶え間なく會合が行はれた。此等の會合を包む雰囲気は全くエレキのやうであつた。少しでも暴動のことに觸れると、喝采の嵐、賛成の叫び聲がどつと起つた。紳士閣の新聞は、唯一般の不平警戒の氣分を高める許りであつた。セストロロトスキイ小銃製造場に對して赤衛軍に五千のライフル銃を差出すべしといふ私の命令は、紳士閣連中に名状すべからざる混亂恐慌を惹起した。彼等は大々の虐殺が將に準備されつゝありと絶え間なく噂し合ひ、新聞紙上に書き立てた。然し勿論こんな事で、セストロロトスキイ製造場の勞働を妨げて赤衛軍に武器を出させないやうにする譯には少しも行かない。紳士閣の新



聞が、いきり立つて我々に嘲罵非難を加へれば加へる程、民衆は愈々熱烈に我々の呼聲に應じた。次の數日中に危険が愈々やつて來るといふ事が益々双方に分つて來た。社會主義革命黨及びメンシエヴイクの新聞は狂はんばかりに動搖してゐた。

「革命は最大危機に在り！ 七月事件は復び更に大なる規模の下に準備されつゝあり、然れば更に不幸無殘なる結果を見るべき事疑ひを容れず」

ゴリキイは、彼の機關新聞たる「ノーワヤ・ジースニ」に「新生活」紙上に於て、日々露西亞の文化的生活は亡びんとすと云ふ豫言を掲

げた。一般に社會主義者の赤表は驚くべき速度を以て紳士閥の知識階級から消えて行つて、勞働階級が峻烈な統帥權を揮ふべき時代が接近して來る事を告げた。一方最も引込思案の聯隊に屬する兵卒等も、狂熱を以て軍事革命委員を迎へた。コサツク軍隊及びカデツト黨中の少數派たる社會主義者からの使ひがやつて來て、大びらに争鬪を開始する場合には、少なくとも彼等の仲間に中立を守らせることを約束した。ケレンスキイ政府がその脚下に確乎たる地盤を有せず宙ぶらりんの状態にあつたことは明白である。

軍隊區の陸軍參謀本部は我々と交渉を開始し、妥協を申出た、我々は敵の抵抗力如何を知る爲にこの談判に加はつた。參謀本部の神



經は極端に昂奮してイライラしてゐた。彼等は或は警告し、或は威嚇し、我黨の委任者は法律上正當ならずとさへ公言した。勿論こんな宣言をしても委任者の仕事の妨害などには寸毫も爲らぬ。中央實行委員會は陸軍參謀本部と協調して、參謀長のマレヴスキイをペトログラード軍隊區の總指揮官に任命し、而して若し我黨の委任者がマレヴスキイに従屬するならば寛大の處置を以て彼等を承認することに同意しやうといつた。この提議は却けられ、交渉打切り談判破裂と爲つた。

メンシエヴィク黨と社會主義革命黨の重立つた連中は仲裁者として我黨に臨み、我々と革命との運命の悲惨を豫言しながら、或は論

じ或は我々を威嚇したりした。

### 19 ペトログラード代表者日

スモルニイ、インスチチュートの建物は、當時已にペトログラード代表者と我黨の手中に在つた、メンシエヴィクと右翼社會主義革命黨はマリヤ宮殿に移轉した。この宮殿内で辛ふじて生れた假議會が殆んど最後の息を引取らうとしてゐたのである。ケレンスキイは假議會に於いて大演説を試みた。紳士閱連中の大喝采裡に、彼はヒステリーの脅し聲を以て自己の無力無能を隠さうと試みた。陸軍參謀本部は最後の抵抗を試みた。即ち守備隊内の様々な團體に招



待狀を發して、各團體から二名の代表者を擇んで首府より撤兵するの議を論議せしめやうとした。會議は十一月四日午後一時に開くことに爲つた。諸聯隊は直ちにこの招待状のことを我々に報告した。我々は猶豫なく電話を以てその朝の十一時に守備隊の會合を開いた。代表者の中には直接に參謀本部に出かけて行つたものもあつたが、彼等はペトログラード代表者の許可なくしては一步も動かぬことを言明した。守備隊會は異口同音に軍事革命委員會に對する忠誠を誓つた。前代表者黨の御役人の代表者連中には反對を試みたものがあつたが、然しそれは聯隊の代表者の間に何等の援助をも發見することが出来なかつた。陸軍參謀本部の計畫は單に我々の立脚地

の鞏固なる事を示したに過ぎぬ。先鋒を承つて立働いたのはウォルフ聯隊である。七月十六―十七日の夜、樂隊の音に合はせて、ボルシエヴィク鎮壓の爲めにタウリダ宮殿に進軍して行つたと同一のウォルフ聯隊であつたのである。

中央實行委員會は、先にも述べた如く、ペトログラード代表者の資金と新聞とを一手に持つてゐた。此等の新聞紙の一つを我々の手に收めやうとした努力は皆水泡に歸して丁つた。其處で十月中旬ペトログラード代表者議會の爲めに獨立新聞を創設しやうと云ふ計畫が起つた。然し印刷所は皆彼等に占領されてゐるし、所有主も我々にボイコットを喰はした。而して中央實行委員會はそれを默認して



ゐたのである。かう云ふ譯で、プロバガンタを大々的に擴張し、新聞設立の爲めの資金を募集する目的でペトログラード代表者日なるものを造ることに一決した。この事は二週間以前に十一月四日に行ふと定められてゐたが、偶然にも暴動が衆人の眼に映じ始めた日と一致したのである。敵方の新聞は、十一月ペトログラード市街に於てボルシエヱイクの連中が、武装暴動を起すといふ事は豫定の事實であると書立てた。暴動のあることを疑ふ者は一人も無かつた。問題は唯時間であつた。何時始まるかは誰人も知らなかつたのである。我々の口から否認か承認かその何れかを引出す爲めに様々な想像や臆測や豫言を逞ふしたが、皆無効であつた。代表者議會は靜肅

に沈着に一步一步計畫を進めて行つて、紳士閥の喧々轟々の輿論などには少しも耳を傾けなかつた。

十一月四日は無資産階級軍勢の觀兵式の日だ。何れの點から見ても頗る立派な出來榮であつた。右黨の連中は當日はペトログラード市街には血潮の海が出来るだらうと警告したが、そんな事には頓着なく多數の人民は代表者會議に參與する爲に大濤の如くに町に溢れ出した。我々はあらん限りの雄辯の秘術を用ひた。凡ゆる公開の場所は一杯になつた。會合は數時間何の支障も無くすらすらと運んだ。我黨の演説家、代表者會議に出席する爲めに各地方より參集し來れる代表者、戦線より來れる演説家、左翼社會主義革命黨



及び無政府主義黨の辯者の演説があつた。廣間<sup>ホイル</sup>は唯労働者と兵卒の群ばかりで一杯になつてゐた。革命中ベトログラードで斯かる會合のあつたのは僅々數回に過ぎぬ。

低級中産階級の大部分の人間は頗る狼狽したが、寧ろ紳士閣新聞の警告やら惡罵やらに依つて吃驚した量の方が、實地を見て驚いたより遙かに多い。數萬人の人波が人民宮殿の壁に押しつけられ、廊下に溢れ出し、廣間廣間に充滿してゐた。圓柱からは人間の頭や手や足の恰好をした巨大な花輪がさながら葡萄の總<sup>よさ</sup>のやうに垂れ下つてゐた。空氣は緊張して電流でも通じてゐるやうであつた。こんな感じは革命の最大危機といつた風の時にしか感じられないものだ。

「ケレンスキイ政府を打倒せ、戦争なんぞは止めちまへ、一切の權威を代表者議會に渡せ」

代表者黨の代表者連は一人としてこの雲霞の如き群衆の前に進んで反對の言葉を吐かふとはしなかつた。ベトログラード代表者のかゝる勝利は滅多に見られぬものであつた。戦争は事實勝つたも同然である。唯もう幽霊政府に最後の軍事的打撃を與へさへすればそれで済むのだ。

## 20 動搖分子の折伏

我黨中の注意深い連中は、我々にまだ我黨の味方に爲つてゐない



軍隊、即ちコサツク、騎兵聯隊、セミオーノフ護衛兵、自轉車聯隊があることを警告した。宣傳者及び委任者は己に此等の團體にも任命されてゐたが、彼等の報告は皆十分満足の行くもの許りであつた。熱し切つた雰圍氣は誰人にもまた何物にもその影響を與へずには置かなかつた。軍隊中の最も保守的な連中であへも、ペトログラード守備隊の一般的傾向に抗ふことは出来なかつたのである。

私はケレンスキイ政府の頼みの綱と思はれてゐるセミオーノフ聯隊の野外會議に出席した。右黨の最も有名な辯者も亦出席してゐた。彼等は聯立政府の最後の綱として保守的な護衛兵聯隊にしがみついてゐるのだ。然しそんな事は何の役にも立たぬ。聯隊は驚くべ

き大多數を以て我々に有利な宣言を爲し、前の大<sup>さき</sup>大臣連にその演説の終りまで續けさせなかつた。代表者の要求に反對する團體は、重に官吏、義勇兵から出てゐるので、一般的に云ふと彼等は中流階級の知識階級乃至半知識階級から出来上つてゐるのである。労働者と農民は全く我々の味方である。在來の社會組織の破壊事業は殆んど成功を示してゐる譯である。

ペトログラードの軍事上の中央の根據は、ペテロ及びパウロの要塞である。我黨はその指揮官として若い旗手將校を任命したが、彼は數時間後に完全にその要塞を手に入れて了つて、恰もその要塞に生れ付いた人間であらうかのやうな感を抱かせた。所謂合法なる



(正當なる)軍事當局者は一體何んな事が起るであらうと暫時日和見的な態度を採るに到つた。

上述の理由に依つて、我々は自轉車聯隊を頼むに足らぬものと思つてゐた。一月五日の午後二時頃私は要塞に出掛けて行つた。庭内で會合が開かれてゐた。右黨の辯者が演説をしてゐたが、彼奴は頗る注意深く、回避的にやつて、ケレンスキイに關する問題は努めて之を避けてゐた。ケレンスキイの名をいふと、兵士仲間でさへも反抗、憤怒の叫びを擧げる位である。然し彼等は彼々の云ふ所を傾聴し、我々に傾倒してゐた。四時に自轉車隊の連中は近處の近代曲馬場で大隊の會合を開いた。辯者の中には陣營總長バラデロフがゐ

た。彼奴も來極めて細心に演説をした。御役人、及び半御役人の辯者が労働者の黨派を裏切者の結黨であるとか、獨帝カイゼルの傭はれ者だとかいつてゐるうちに日もとつぶり暮れゝつた。參謀本部の次官が私の許へやつて來て、

「おい、どうだい、こゝらあたりで一つ妥協したら……」

と言つたが、今更そんな御託を列べたところで始まらない。種々論争の結果、大隊は代表者議會が政權を收拾することに賛成するといふ決議をした。反對投票は僅々三十。

## 21 暴動開始



ケレンスキイ政府は援助を求むる爲に彼處此處と探し廻り尋ね廻つてゐた。戦線から新自轉車大隊二箇と砲兵中隊を呼び還し、若干の騎兵隊をも呼び還へさんとしてゐた。自轉車隊は途上ペトログラード代表者議會に電報を送つて曰く、

『我々はペトログラードに連れ行かれつゝあり、その何故かを知らず、宜しく説明するところあれ』

我々は彼等に途中に留まり、猶使者を送らんことを求めた。使者が到着した。彼等は代表者議會に於て、大隊は全然我黨の味方であると宣言した。この事はまた新しい狂熱の嵐を惹き起した。大隊は直ちに入京すべき命令を受けた。

戦線から來る使者の数は日々増加する一方であつた。彼等は事の有様を歸へつて報告する爲めにやつて來るのである。彼等は我黨の發行物を戦線に持ち還へり、ペトログラード代表者は、労働者、兵士、農民が政權を獲得せん爲めに争鬭を繼續しつゝあるといふ報告を傳播した。

『塹壕は卿等を援助すべし』

と彼等は我々に物語つた。最近四五ヶ月間選舉せられなかつた舊軍隊委員連は、我々に脅し文句の電報を打つて寄越した。誰も驚く者はない。我々は舊軍隊委員連は、中央實行委員會の地方代表者會議に於ける如く、兵士の團體と何等の接觸を保つてゐないと云ふ事を



ちやんと心得てゐる。

軍事革命委員會は凡ゆる停車場に委任者を任命した。彼等は一切の出入りする列車を慎重に監視してゐる。就中軍隊の移動を最も注目してゐるが、絶え間なく近接せる都市及びその他の守備隊との間に電話及び自動車で聯絡が取れるやうになつた。一切の代表者議會はペトログラード代表者議會と協調して、反革命的軍隊、否寧ろ現政府に欺瞞せられた軍隊がペトログラードに入らないやうに監視する、停車場の下級従業員及び鐵道工夫連は即刻我黨の委任者を承認した。

十一月六日、一つの難事件が中央電話交換局で突發した。我々の

電話聯絡が拒絶されたのだ。カデットの連中が中央電話交換局に入り込んだので、交換手の娘さん連は彼等を楯に取つて代表者に、手強く反對と出たのである。これこそ將來の御役人連中のサボターヂユの最初の徴候であつたのである。軍事革命委員會は交換局に支隊を派遣し、入口に二門の小砲を据え付けた。斯くの如くして、御役所の分捕は開始されたのである。水夫及び赤衛軍は小數の支隊に分れて電信局、郵便局及びその他の各御役所に駐屯した。而して遂に國立銀行乗取りの方策が講せられたのである。代表者の本部たるヌモルニイ、インスチチュートは要塞と變つた。その屋根裏の部屋には、中央實行委員會の遺産たる多數の機關銃が藏つてあつたが、何



の手入もされずに放りばなしであつたし、それに機關銃操縦の仕事に當つてゐる連中も扱方をすっかり忘れて了つてゐる。我々はスモルニイ、インスチチユートに機關銃支隊を更らに呼び寄せた。朝早く兵士等はスモルニイの長い石廊下を機關銃をゴロゴロ引張つたりした、スモルニイ、インスチチユートに居残つてゐたメンシエブイク及び社會主義革命黨の連中は、時々吃驚したやうな顔を戸の外に突き出した。代表者及び守備隊は日々スモルニイ、インスチチユートで會合を開いた。

三階の隅の小さな部屋で軍事革命委員會は永久の會議を續けてゐた。此處に軍隊の移動や兵士及び労働者の精神状態や兵營内に於け

るプロバガンダの進行や無頼漢の行爲動作や、紳士閥政論家の會合や、冬宮内の生活や、及び前代表者黨の意向等に關する凡ゆる報告が流れ込んで來るのである。我々の報告者は到る處からやつて來る。報告者の中には労働者あり、御役人あり、門番あり、社會主義を奉ずる士官學校生あり、下男下女あり、而して當世流の貴婦人もある。多數の者は單に滑稽無意義な報告を持つて來るが、然し非常に價值のある報告を齎らす者もある。決戦の瞬間が段々接近して來た。今更ら逃げ出さうとしてもそれは駄目だ。

十一月六日の夕刻、ケレンスキイが假議會にやつて來てポルシエグイク鎮壓手段の承認を求めた。然しその假議會なるものが既に憐



れむべき混亂状態に陥り、殆んど解散せん有様であつた。カデツト黨は右翼社會主義革命黨に責任投票を受けんことを慫慂し、右翼社會主義革命黨は中央社會主義革命黨を壓迫し、中央黨は孤疑逡巡を極め、左翼社會主義革命黨は議會反對の政策を進めてゐるといふ有様。幾多の會合、爭論、躊躇の後左翼の決議が採用された。即ち代表者の暴動運動を所罰するが、これを惹起した責任は政府の反民主的政策にありと云ふのである。同時に我々は毎日、我々に課せられたる死刑の宣告や、様々な極悪な器械や、スモルニイ、インスチチュートを直ちに破壊するなど云ふ事を知らせる手紙に接した。紳士閥の新聞は憎惡と恐怖との念に驅られて荒々しくなつてゐ

た。ゴルギイはもうすつかり自作の「鷹の歌」などは忘れて了つて、絶えず主義の雑誌ノワヤ、デーズニ（新生活）紙上に世界の終末の來るべき事を豫言してゐた。

軍事革命委員會の連中は最後の一週間の間もスモルニイ、インスチチュートを去らなかつた。彼等は安樂椅子の上に時折睡眠を取る評りで、絶えず使者や探偵や自轉車隊の人間や電信係や電話の呼鈴に起された。最も不安であつたのは十一月六日―七日の夜であつた。我々はバヴロウスクから電話で政府が其處の砲兵とペテルホフ學校から旗手將校を召喚してゐると云ふ報告を受けた。ケレンスキイは既に冬宮内に士官學校生や將校や突撃隊の人々を集めて置いた



のである。我々は電話に依つて、信頼するに足る護衛軍の支隊を  
てペトログラードの凡ゆる入口を遮断せしめ、且つ現政府に依つて  
召集せられた陸軍支隊を迎ふべき煽動者を派遣せんことを命じた。  
若しその支隊にして理窟で喰ひ止め得られざる時は、武器を使用す  
る手筈であつた。我々の會議はすべて皆完全に電話に依つて大びら  
に通達せられた。従つて政府の御手先連中の耳にも入つたのであ  
る。

我黨の委任者は我々に、我々の仲間がペトログラードの一切の入  
口を監視してゐると云ふ事を報告した。オラニエンバウム士官學校  
生の一部分が夜に乗じて境界を突破したので、我々は電話に依つて

彼等を追跡した。我々は他の中隊を召集してスモルニイの外部の警  
戒を嚴重にした。我々は守備隊の凡ゆる部分と不斷の接觸を維持し  
てゐた。當番の小隊は全聯隊内で監視をしてゐた。各團體の代表者  
は日夜を別たす常に軍事革命委員會の命令一下直ちに出勤する事が  
出来るやうになつてゐた。凡ゆる黒百人ブラックシンドレットの暴動を掃蕩し、市街破壊  
を始める際には武器を使用すること、而して必要とあらば、用捨な  
くごんどんやつつけると云ふ命令が下つてゐた。この存亡危急の夜  
中にペトログラードの目抜の場所は殆んど何等の抵抗なく、争鬭な  
く、犠牲なく我々の掌中に歸して了つた。國立銀行は政府の歩哨と  
一臺の武装車とに依つて護衛されてゐた。銀行の建物は我黨の支隊



に依つてぐるりと取巻かれた。武装車を不意打を喰はして奪取した。斯くて国立銀行は一丸を發射することなくして軍事革命委員會の手に入つたのである。

佛蘭西露西亞建物の下手に當つてネヅア河に巡洋艦アウアロラが修繕を受けつゝあつた。アウロラの水兵は皆衷心より革命に歸依してゐるもの許りであつた。八月下旬、コルニロフがペトログラードを威嚇した時、冬宮防禦の爲め召喚されたのはアウロラの水兵であつた。彼等は極端にケレンスキイの政府に敵意を抱いてゐると云ふものゝ、彼等は反革命黨員を撃退することを彼等の義務と心得てゐたので、二言もなく命の儘に爲つたのである。コルニロフの危険が

過去つた時、彼等は亦日蔭者にされて了つたのである。今や十一月暴動に際して、彼等は頗る危険なので、海軍省はアウロラにペトログラードを出航すべく命じたのである。水兵等はこの事を直ちに我々に報告した。我々は反對の命令を下した。巡洋艦アウロラは今や如何なる時でも代表者議會當局の爲めに全力を使用すべき準備成つて差控へてゐる。

## 22 決戦の日

十一月七日の黎明、我黨の印刷所の男女の職工がスモルニイにやつて來て、政府が我黨の重要な機關新聞の發行を停止し、且つ又べ



トログラード代表者の新機關新聞をも止め、印刷所の戸は政府の御手先連中に依つて封印されて了つたといふ事を報告した。軍事革命委員会は直ちにこの命令を取消し、兩新聞を保護する事に爲り、反革命的計畫より社會主義者新聞の自由を保護する最高の名譽を勇敢なるウオルフ聯隊に授けた。この後印刷所に於て仕事は再び開始せられ、絶え間なく行はれて、兩紙とも一定の時間に出るやうに爲つた。

政府は依然として冬宮に於て閣議を開いてゐたが、最早單に以前にあつた自己の影のやうなものに爲つて了つてゐた。十一月七日、冬宮は徐々に我黨の軍隊に依つてすつかり圍繞せられた。午後二時、

我々は軍事革命委員會の名に於て、ペトログラード代表者會議でケレンスキイ政府は最早存在せず、而して全露西亞代表者會議の決議は今懸案として、現政府の權威は軍事革命委員會の手に收拾せらるべきものなりとの宣言をした。

レーニンは數日前にフィンランドを去つて、郊外の勞働階級の住んでゐる所に蟄伏してゐた。十一月七日彼は私かにスモルニイにやつて來た。諸新聞を見て、彼は我々がケレンスキイ政府と妥協しつゝあると云ふ印象を有つてゐた。紳士閥の新聞は來るべき反逆、市街に於ける武装兵士の進軍、掠奪、避くべからざる流血の慘を盛んに書き立て、暴動が實際起りかけてゐて、彼奴等の面目玉を踏み潰



し乍ら我々と陸軍參謀本部との間に交渉が出来上つてゐると云ふ事を認めることが出来なかつた。この間に市街戦もなく發砲もなく流血もなく、靜肅に政府の建物は訓練のよく行き届いた兵士、水兵、赤衛軍の支隊によつて奪取されてゐた。而して此等の支隊はスモルニイ、インスチチユートの三階の小つぼけな部室から出て行く精確な電話の命令とちやんと歩調を合してゐたのである。

夕刻、第二全露西亞代表者議會の豫備會が開かれた。

中央實行委員會の報告はダンによつて爲された。彼は反逆者、掠奪者、打壊し屋に對する起訴狀を讀み上げ、暴動は一日或は二日中に、戦線の軍隊によつて不可抗的に鎮壓せらるべしと豫言して一座

を驚かさうと試みた。彼の演説は頗るマヤカシ的で、ペトログラード暴動の勝ち誇つた進軍に狂熱的熱誠を以て追隨して行かふとしてゐる驚くべき多數の代表者のゐる廣間<sup>ホイル</sup>では丸きり場違ひの感があつた。

既にこの時迄に冬宮は取圍まれてはゐたが、未だ奪取されてはゐなかつた。時々冬宮の窓から、極めて遅く極めて用心深く冬宮に取りつめて行く攻圍者に向つて發砲した。ペトログラード及びバウロ要塞から冬宮に向つて發砲する微かな音かスモルニイに聞えて來た。マルトフは、怒り甲斐もないのであるが、それでもいきり立つて内亂の演壇から、特に冬宮の攻圍に對して演説をしてゐた。其處



には他の大臣連に任して、噫々何たる悲惨事ぞ！メンシエヴィク黨の連中がゐるのだ。争鬭の現場から報告する爲めにやつて来た二人の水兵が、彼と反對側の演壇に立ち上つた。彼等は我々の非難者をして七月攻撃、舊政府の凡ゆる背信的政策、兵士の死刑の再設立、捕縛、革命的機關の掠奪を想起せしめ、而して我々に勝たずんば唯死あるのみと誓つた。宮城の廣場で我黨の最初の犠牲者が出来たと云ふ事を知らせたのも彼等水兵であつた。

凡ゆる人々は恰も或る目に見えぬ信號に依つて動かされたかの如く立ち上つた。而して深い熱烈な道徳的感情に依つてのみ惹起され得る一致を以て葬送の曲を歌つた。この瞬間を経験したものは一生

忘れる事は出来まい。會合は突如終りを告げた。其處に凝つと坐つてゐて、冬宮の（其處で現政府の運命は勿論最早決定されてゐたのだ）城壁下の争鬭、發砲の反響を耳にしながら、政府を建設するの方如何などと云ふ理論的問題などは到底考へては居られぬ。

然し冬宮の奪取には持久戦を要するので、議會の決断のよく付いてゐない連中の間に多少の動搖を惹き起した。右翼黨は、その代辯者を以て、我黨の速急に没落する事を豫言した。凡ゆる人々は不安氣に冬宮からの報告を待ち設けてゐた。暫時して作戦の指揮に當つてゐるアントノフがやつて来た。と、同時に廣間には死の如き沈黙が起つた。冬宮は奪取せられた。ケレンスキイは逃亡した。他の大



臣連は捕縛されてペテロ及びバウロ要塞に運ばれて行つた。十一月革命の第一章は終りを告げた。

右翼社會主義革命黨及びメンシエヴィクは、併せて六十人即ち議席の十分の一を占めてゐるのであるが、不服を申立て、會議を去つた。彼等は別に何事を爲すことも出来ないで、次いで來るべき事件に對する全責任をボルシエヴィク及び左翼社會主義革命黨に押被せたのである。左翼社會主義革命黨も亦動搖してゐた。彼等の過去の經歷上、彼等はツエルノフの黨派から離れ去ることが出来ないでゐるのである。この黨派の右翼は今や全く低級中産階級及びその知識階級者と、村落に住する相應な農民の方に傾いて行つて了つて、

凡ゆる重大な問題に關して、我々に反對して、自由黨紳士閥と手を取り合つて進んでゐる。この黨の更らに革命的な分子は、最も貧困なる農民階級の社會的渴望を示す急進主義を反映してゐた。無資産階級者及びその黨派に傾いてゐた。然しながら彼等は、彼等を舊黨派と結び付けてゐる臍の緒を立ち切ることを恐れてゐるのだ。我々が正に假議會を去らんとした時、彼等は我々に追隨する事を拒絶し、冒險はするなと我々に警告した。然し暴動は彼等をして、代表者議會に賛成か反對か敵か味方かを決定する事を餘儀なくせしめた。躊躇逡巡しながらも、彼等は我々の立つてゐると同じ防禦柵の側にその軍勢を集中しつゝあつたのである。



## 23 人民委任者會議の形成

ペトログラードに於ける勝利は完全なるものであつた。軍事革命委員會は完全に政權をその手に收めた。我々は死刑を廢止し、軍隊委員の新選舉及び其他を命ずる布告を發した。然し我々は我々が諸縣と聯絡のない事を發見した。鐵道、郵便及び電信局の高級官吏達は我々と反對の側に立つた。舊軍隊委員、市町村議會及び地方議會ゼミナツキは依然として我々に戰を宣し、一瞬時にして反逆者を掃蕩すべしなどと云ふ脅し文句の電報をスモルニイ、インスチチュートに投げ込んでゐた。ペトログラードの電信局が我々の云ふ事を聽かないので、

我々の電報、命令、説明書を諸縣に通達する事が出来ない。斯く首都が自餘の地方から孤立してゐるので、面倒な奇怪な噂が刻々に擴つて行つた。

代表者が眞に政權を掌握し、舊政府の連中が捕縛せられ、ペトログラードの市街には武装せる兵士が横行濶歩してゐると云ふことを知つた紳士閥及び聯立派の新聞は、曩には到底見られなかつた程猛烈な氣狂染みた攻撃を我々に加へた。ありと凡ゆる虚偽、誹謗を彼等は軍事革命委員會、その指揮者、その委任者に向つて浴びせかけた。

十一月八日ペトログラード代表者會議が開かれ、全露西亞代表者



議會の代表者、守備隊會議の委員及び我黨の多數が出席した。是處で四ヶ月の後始めてレーニンとチノヅィエフが最も狂熱的な拍手喝采の中に演壇に登つたのである。然し我々の勝利の歡喜に混つて、露西亞はこの暴動の報知に如何なる態度を以て接するか、代表者議會は果して彼等の權力を維持し得るかに就て多少の不安があつた。同日の夕景、代表者議會の會合が行はれた。この會合は最も重要なものである。レーニンは平和及び土地に關する二つの布告を持ち出した。少時間論議の後滿場一致を以て採用された。この會合に於て新しい中央權力即ち人民委任者會議が出来上つたのである。

我黨の中央委員は左翼社會主義革命黨との協調に努めた。彼等は

代表者政府の構成に參與せんことを慫慂せられたが、何とも決心が付かずにゐた。彼等は新政府は聯立の根據に立つて、代表者議會中の凡ゆる黨派から形成せらるべきものと思考してゐた。然しメンシエヴィク及び右翼社會主義革命黨は反代表者黨派と聯合を結ぶのが極上の策であるとして、代表者議會と關係を絶つてゐた。我々は唯左翼社會主義革命黨が彼等の右翼の仲間を革命圏内に再び加入するやうに努力しなければならぬと暗示するより外に別に方法はなかつた。而して彼等がこの實現の望みのない仕事に身心を勞してゐる間に、我々は政府の全責任を自らの双肩に擔はねばならぬと考へた。人民委任者の名簿は殆んどボルシエヴィクの人間許りから出来上つ



た。然しこの中に幾許かの政治的危険の含まれてゐるのは疑ふ餘地はない。この變化は些か速急の憾みがないでもない。さう思ふのも滿更無理ではない。この黨派の首領連は昨日まで憲法第百八條の罪名を着せられてゐたのであるから、即ち反逆罪！ 然し我々の行くべき道はこれより外にはない。他の代表者の團體は自ら手を下さうとはせず、事件の成行を待つてゐて躊躇し且つ拒絶したのだ。結局、眞に革命的な政府を樹立する事の出来るのは我黨の外にはないのだ。これは疑ふ餘地がない。

## 24 新制度の最初の日

代表者議會に依つて確認された土地及び平和に關する布告は多數に印刷されて、戦線からの代表者、村落から出て來た農民の使者、縣及び塹壕に我々から派遣された宣傳者に依つて露西亞の隅々まで普遍く撤布された。同時に我々は赤衛軍の組織と武裝とを繼續してやつた。彼等は舊守備隊及び水兵等と協力して困難なる護衛の任に膺つた。人民委任者會議は續々と政府の建物の引繼ぎをやつたが、到る處で上中の御役人連の消極的な反抗に出會つた。前の代表者黨派は凡ゆる手段を盡して此等の階級から援助を求めやうとし、斯くして新當局者に對してサボターヂユ（怠業）をやらうとした。我々の敵は、全事務は單なる挿話の類で、然かも精々一日か二日か、一



週間位の生命よりなく、代表者政府は直ちに顛覆するに違ひないと考へてゐた。外國領事及び大使館の連中が先づスモルニイに姿を見せた。用もあつたのだが好奇心も大分手傳つてゐたらしい。新聞通信員もノート、ブックとカメラとを持つて急いでやつて來た。一日か二日経つともう間に合はないと思つて、凡ゆる人々が新政府の見物に急遽やつて來た。

ペトログラード市は秩序整然としてゐた。水兵、兵士、赤衛軍は最初の日、模範的訓練を以て行動し、厳格な革命的秩序を維持してゐた。

我々の敵はこの「挿話」<sup>エピソード</sup>が餘り長く繼續しはしないかと恐怖に襲

はれ出した。其處で彼等、直ちに新政府に對する攻撃を開始した。

首唱者は社會主義革命黨及びメンシエヴィクであつた。彼等は革命の最初の間は、全權力を自らの手に收めやうなど、云ふ心懸けも勇氣もなかつた。彼等の政治的地位が仲介者、月下氷人といったやうなものであつたから、彼等は援助者、批評家、友情ある反對者、紳士閥の辯解者の資格で聯立政府に御奉公することを以て満足してゐたのである。凡ゆる選舉に際して彼等は良心上自由黨紳士閥に反對したが、政府に在つては必ずそれと結び付いてゐた。此等の手練手管の御蔭で、彼等は革命の最初の六ヶ月間に民衆と軍隊との信任をすつかり失ふことに成功し、而して今や十一月革命が遂に彼等を權



力の地位から遂ひ出して了つたのである。然し昨日まで彼等は依然として我々は現在の主人公なりと考へてゐた。彼等が迫害を加へてゐたボルシェヴィクの首領連は露帝時代ツァーリに於けると等しく、法律以外に生活し且つ蟄伏を餘儀なくせられてゐた。然し今日、ボルシェヴィクは政權を把握してゐる。而して前の大員、聯立主義者、及び彼等の援助者は遂ひ攘はれて、これから事件の成行には何等の影響を與へることも出来ぬ。彼等はこの突發的な變化が、新時代の開始を示すものと信じたくないし、また信ずる事も出来ないのである。それは單なる偶然の事件、一つの誤解に過ぎないもので、一寸馬力を懸けて演説したり、罪狀を掲げたりすれば端正する事の出来るも

のと考へてゐたいし、また無理槍にさう考へてゐるのであるが、事々に彼等は増加し且つ抵抗すべからざる障害に打突つて躓いた。彼等が盲目的な、眞に野蠻な憎惡の情を我々に對して持つやうになつたのも亦宜なりと云はざるを得ない。

紳士閥の政治家は、勿論の事自ら火の中に飛び込まうなどと云ふ決心は持ち合せてゐない。その代りに彼等は社會主義革命黨及びメキシエヴィクの尻押しをして勝敗如何と黒幕から覗いて見ると云ふ寸法を採つた。此等二黨は半ば政權を取つてゐた際にはまるで意氣地がなかつたが、我々と相争ふに及んで大分精力エネルギイを恢復して來た。彼等の手段は最も空想的な流言と誹謗讒言を擴めるに在る。彼等の



名に於て、新政府を絶滅すべく直接人民に訴へた宣言書が發表された。彼等も亦サボターヂユ遂行の爲めに役人連を糾合し、我々に對して軍事的行動を取る爲めに士官學校生を集めた。十一月九日―十日の間、我々は電報に依つて、軍隊委員會、市町村議會、地方議會、鐵道組合經營委員會から、しつかりなしに威嚇を受けた。紳士閥連が重に巢を喰つてゐるネーウスキイ廣場は益々活氣付いて來た。長夜の眠りから叩き起され、新聞に依つて煽てられた紳士閥の青年はネーウスキイ廣場に於て、代表者政府に對すを猛烈な反對騒ぎを演じた。多數の紳士閥士官學校生の援助を得て、彼等は赤衛軍の人間の武器を取り上げ、露路で水兵や赤衛軍を射殺した。士官學校生の

一隊は中央電話交換局を奪取した。彼等はまた電信局郡便局を奪取しやうとした。最後に我々は、三臺の武装車が我々に敵對してゐる或る未知の軍事機關の手に歸したと云ふ報告を受けた。紳士閥の分子は明かにその頭を擡げつゝあつた。新聞は我々は急速に最後の時に近づきつゝありと云つた。我黨の味方の人間が秘密命令を途中で奪ひ取つたが、それに依ると、ペトログラード代表者議會に反對して軍事機關の形成され、その頭目は市議會及び舊中央實行委員會に依つて編成された「革命防禦委員會」であることが明瞭である。中央實行委員會に於ても市議會に於ても、右翼社會主義革命黨とメンシエヴィクとが重なる黨派である。この委員會は、聯立主義者の後



に隠れて代表者議會に致命傷を與へる事を望んでゐる士官學校生、大學生、及び多數の反革命御役人を手先に使つてゐるのである。

### 25 十一月十一日のカデツト暴動

反革命團體の重要な根底を爲す者は、士官學校と機關學校であつた。而して其處には多數の武器と軍用品とが貯藏されてゐて、革命政府の建物を襲撃して荒したのは夫れを使用してやつた仕事であつた。

赤衛軍と水兵との支隊が士官學校を包圍して、武器の引渡を要求する文書を送つた。被攻圍者は答ふるに彈丸を以てした。攻圍者は

躊躇してゐた。群衆がたかり出した。時々學校から出て來る流彈が行人に當つた。小競争こざりあひが無闇に長引ひては革命支隊に悪い影響を及ぼすので、過激な手段を用ふる必要があつた。士官學校生の武装解除の任はペテロ及びパウロ要塞の指揮官旗手B某に下つた。彼等は數臺の武装車と大砲とを持つて來て、士官學校を犇と取圍み、士官學校生に十分間以内に降伏すべしと云ふ最後通牒を送つた。彼等は窓から新手の射撃を以て答に代へた。十分が終りを告げたので、B某は大砲を發射すべき命を下した。最初の彈丸が壁に大きな穴を開けた。士官學校生は降伏した。然し彼等の多數は逃亡を企て、逃亡しながら追跡者に向つて發砲した。凡ゆる内亂に附物の憤怒が直ち



に突發した。水兵等は疑ひもなく個々の士官學校生を随分と酷い目に會はせた。紳士閥新聞は後になつて、不人情、野蠻の故を以て水兵及び代表者政府を責めた。然しこの一點に關しては沈黙を守つてゐた。即ち十一月七日―八日の革命は一彈の發射もなく一人の犠牲なくして成就せられた。而して唯紳士閥に依つて組織せられた反革命の陰謀のみが、紳士閥の青年を勞働者、兵士、及び水兵に對する内亂の大釜の中に投り込み、避くべからざる暴行と犠牲とを惹起した事、これである。十一月十一日の事件はペトログラードの人民の氣質に根本的な變化を起した、争鬪は更に悲劇的に爲つて來た。同時に我々の敵は遂に事態が彼等の思考してゐたよりも遙かに嚴肅な

ものであり、代表者は單に資本閥の御用新聞や士官學校の言ひなり次第に、今將に獲得した政權を放棄するやうな事は金輪際ないと云ふ事を自覺した。ペトログラードから凡ゆる反革命の温床ホットベッドを取除く事は極めて熱心に實行された。士官學校生は殆んど全く武装を解除され、暴動に馳せ參じた連中は捕縛されてペテロ及びパウロ要塞に幽閉せられ、さなくばクロンシュタットに連れて行かれた。代表者當局に對して暴動を起すことを大びらに叫んでゐた諸新聞は差押へられた。途中で奪取した反革命の通信の中に名前を出てゐる前代表者黨の首領捕縛の命令も發せられた。之を以て、新政府當局に對する一切の軍事的反對は遂に全く首都にその跡を絶つに至つた。



この後長い、骨の折れる御役人、技術官連、兵省の傭人の「イタリヤ式」ストライキとの争ひが續いて起つた。此等の人間は俸給の點から云へば、壓服されてゐる階級に屬しゐるのであるが、生活の様式及び心理上、紳士閥に戀着してゐるのである。彼等は皇黨主義ツァーリズムが先頭に立つてゐた時忠實に國家に奉仕してゐた。而して政權が帝國主義紳士閥の手に移つた時も依然忠勤を抽んでゐた。その後革命の第二期に到つて、彼等は彼等の一切の知識と技術的熟練とを以て聯立政府に鞍替をしたのである。然し労働者、兵士、百姓が一揆を起して何でも自家の用に供する利用階級を國家樞要の位地から逐ひ出して、政務の指揮を自らの手に收めた時、御役人、傭人連は反逆

を企て、何うしても新政府を援助する事を絶対に拒絶した。時の進むに連れて、このサボターヂユは増々傳播して行つた。その組織者は重に社會主義革命黨及びメンシエヴィクの間で、協商國大使の懷から財政的援助を受けてゐた。

## 26 ケレンスキイのペトログラード進撃

代表者のペトログラードに於ける勢力が段々鞏固に爲つて行くので、中産階級の諸團體は外部から軍事的援助を求めるところを希望するに至つた。ペトログラード電信局、鐵道電信發着所、ツァールスコエ、セローの無線電信所は續々と大軍が、謀反者を鎮壓し秩序を



恢復する目的でペトログラードに向つて進軍しつゝある事を報じた。ケレンスキイは戦線に逃亡してゐたので、紳士閥黨の諸新聞は彼がボルシエヴィク討伐の爲めに無数の軍隊を引率してやつて來ると云ふ事を書き立てた。我々は電信發着所が我々の文書を送る事を拒絶するので諸地方との聯絡が取れてゐなかつた。然し兵士等は、十人、百人と隊をなして毎日我々の許に所屬聯隊、師團、軍隊からの文書を持つて會ひに來たが、皆我々に斯く言ふのを常としてゐた。

「戦線の事なんぞ怖れるには及びません。全戦線は全くあなたの味方です。あなたの命令一下、私達は東の間にあなたを援助するた

め一師團、一軍團位は譯なく派遣しますよ」

軍隊は自餘のものと同じ状態に在つた。兵卒は我黨の味方であつた。我々に反對するのは唯上流階級である。勿論上流階級は軍事上の機關を握つてゐたので、我黨の數萬の軍勢の各部分は相互に聯絡を斷たれて孤立してゐた。我々はいへば、軍隊と諸縣とから孤立してゐたのである。然しペトログラードに於ける代表者の勢力とその布告に關する報導は全國に傳播して行つて、諸縣の代表者議會を刺戟して舊政府當局に對して謀反を起さしめた。

ケレンスキイが軍隊を指揮してペトログラードを指して進軍して來ると云ふ報告は、直ちに確證せられ、且つ一定の形を取るに到つ



た。我々は皇<sup>ツァールスコエセロー</sup>帝<sup>セロー</sup>村から、コサツク梯隊<sup>エチエロン</sup>がルガを通過して進行して來るといふ報告を受けた。ケレンスキイ及びクラスノフ將軍の署名ある宣言書がペトログラードに撒布された。それは全守備隊に數時間にしてペトログラードを占領すべき政府の軍隊に加入せんことを勧告せるものであつた。十一月十一日の士官學校生の暴動は疑ひもなくケレンスキイの計畫と相關聯せるものであつた。然しその暴動は我々の獅子奮進的行動に依つて直ちに粉碎されて了つたのである。ツァールスコエ、セローの守備隊に向けて、今や進軍しつゝあるコサツク梯隊に代表者の權威に服従すべき事を勧告し、拒絶せる場合には武装を解除すべき命令が發せられた。然しツァールスコ

エ、セローの守備隊は軍事行動に不向であつた。將校連が代表者に對して敵意を抱いてゐたので、其處には大砲もなければ指揮官もゐなかつた。コサツク兵は國中で一番有力なツァールスコエ、セローの無線電信所を奪取してその進行を續けた。ペテルホフ、クラースノエ、セロー及びガツチナの守備隊は進んで事に膺るといふ決心を示さなかつたのである。

ペトログラードに於て、殆んど乃に血塗らずして勝利を得たので、兵士等は將來に於ても萬事かう云ふ都合に行くであらうと信じてゐた。コサツク兵に有力な煽動者を派遣して彼等に勞働者の決心を説明してやりさへすれば、コサツク兵は武器を放棄するであらう



と考へてゐた。コルニロフの反革命的叛逆を鎮壓したのは演説と友愛とである。何等の争闘なくしてケレンスキイ政府が免黜せられたのは煽動と巧妙に各官省を奪取せるがためである。ツァールスコエ、セロー、クラスノエ、セロー及びガツチナ代表者議會の首領連はクラスノフ將軍の引卒するコサツク兵に對しても同様の方法を應用したが、今度は成功しなかつた。コサツク兵は何等取り立て、云ふ程の熱心も決心も示すことなくして進軍を續けて行つた。コサツクの二三の分隊がガツチナとクラスノエ、セローに到着し、彼等と地方守備隊との間に數合の小競合こせりあひがあつた。若干の守備隊は武装を解除された。我々は最初の間ケレンスキイの軍勢に就て何等明確な

る觀念を持つてゐなかつた。或者はクラスノフ將軍は一萬の軍勢を引卒してゐると斷言し、他の者は一千人を超えることはあるまいと爲し、敵黨の新聞や宣告書には大文字を以て二軍隊がツァールスコエ、セローの近傍きんぱうに集つてゐると書いてあつた。ペトログラード守備隊には不安の空氣が漲つてゐた。無血の勝利を得たかと思ふ間もなく、彼等は數の知れない敵軍を迎へ、勝敗の歸決の分らぬ戦争をしなければならぬのだ。守備隊會議に於いてはコサツク兵に新たに煽動者と宣言書を送つたらどうかと云ふ案が間斷なく論議せられた。兵士等には、ペトログラード守備隊が固く執つて動かない立場をコサツク兵が拒絶するなど云ふ事は考へ及ばぬ事であつた。か



ゝる間にコサツクの先進隊はペトログラードに近づきつゝあつた。我々は首府の市街に於て決戦が行はるべきことを豫期してゐた。

赤衛軍は非常の決心を示した。彼等は武器、軍用品、指揮官を要求した。然し凡ゆる軍用機械は全く不整頓の状態に在つた、一部分は等閑から、一部分は悪意から。將校連は何處かへ姿を消した。彼等の多數は逃亡したのだ。ライフル銃は此處にある。軍用品は彼處にあると云ふ具合で、大砲と來たらもつと悪い状態にあつた。大砲、砲車、彈丸は其處此處に亂雑に投げ出されてゐるので、方々探して廻はらなければならぬ。諸聯隊には工兵の仕事や野外電話架設などは出来ない。上部から秩序を恢復しやうと頗る努めた革命參謀本部

も、越ゆべからざる障害、即ち重に陸軍の技術官連に依つて組織せられたサポターヂユに躓いて倒れた。

我々は其處で直接労働階級に訴へることに決心した。我々は彼等に「革命」の凡ゆる勝利は今や危胎に瀕してゐる。唯卿等の勢力、自奮、自己犠牲のみが卿等を救ひ且つ労働者及び農の政府（勞農政府）を確立することが出来ると説明した。この訴へは直ちに絶大な實際的成功を贏ち得た。數千の労働者はケレンスキイの軍隊に依つて占領せられた地域に向つて進み、塹壕を掘り始めた。大砲製作場の職工連は大砲を準備し、軍用倉庫の軍需品を供給し、馬の徴發を手づからやつた。彼等は大砲を据え付け、兵站部を組織し、機關